

茗溪



夏

2023

令和5年

no.1117

目次

- グラビア …… 01～02
- 令和5年度茗溪会定時総会・出席代議員一覧 …… 03
- 定時総会理事長挨拶 …… 04
- 学長挨拶 …… 05
- 令和4年度決算報告 …… 06
- 令和5年度事業計画・予算書 …… 07
- 年会費と学生支援 …… 08～09
- 教職研修報告 …… 10～11
- 公開講座報告 …… 12～13
- Peer Garden (茗溪アルバム) …… 14～15
- 茗溪倶楽部やどかり …… 16～17
- 知の提供・誌上講座
「ウェブアプリケーションを使ってみませんか」 …… 18～19
- 元素講話こぼれ話 …… 20 ■ 第12回定時総会報告 …… 21
- 筑波大学50周年・筑波大学50年史 …… 22
- 筑波大学は今 …… 23 ■ 茗溪学園だより …… 24
- 追悼録 …… 25 ■ 桐の葉のつどい …… 26
- 春の叙勲受章おめでとうございます …… 26
- 表紙の言葉 …… 26 ■ 編集後記 …… 26



小貝川ふれあい公園のポピーと筑波山（撮影：鈴木一弘）



桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群
グローバル・コミュニケーション学群
航空・マネジメント学群
教育探求科学群 (2023年4月開設予定)
※設置準備構想中

桜美林学園 理事長・小池 一夫
学長 畑山 浩昭
入学部相談役 川田 孝一 (昭39教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758
桜美林大学入学部インフォメーションセンター
Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO
SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151
茗溪会担当: 取締役 常務執行役員 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<https://www.sekisho.co.jp/>



力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。



- 工学部
 - 機械工学科 機械工学コース
 - 機械工学科 航空宇宙学コース
 - 電気電子情報工学科
 - 応用化学科
- 創造工学部
 - 自動車システム開発工学科
 - ロボット・メカトロニクス学科
 - ホームエレクトロニクス開発学科
- 応用バイオ科学部
 - 応用バイオ科学科 応用バイオコース
 - 応用バイオ科学科 生命科学コース
- 情報学部
 - 情報工学科
 - 情報ネットワーク・コミュニケーション学科
 - 情報メディア学科
- 健康医療科学部
 - 看護学科(看護師・保健師養成課程)
 - 管理栄養学科(管理栄養士養成課程)
 - 臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄 (S52 理) (神奈川茗溪会会 長)
I R 室 望月 正大 (S51 理) (同 副会長)
公務員対策室 林 忠 (S58第1自)



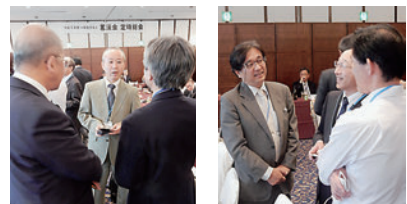
神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>



茗溪会の第12回定時総会は、5月18日(木)に、茗溪会館「茗溪の間」で開催された。当日は30度を超える猛暑であったが、代議員出席者40名(委任状51名)、と多数の茗溪会役員が参加する中で、総会は始まった。(詳細はP.21)

「桐の葉」合唱 久し振りの肩組み高唱に笑顔・笑顔。先導は山崎紀彦(S53 教修農、神奈川茗溪会副会長)
議事風景 賛成挙手をする代議員



定時総会後の懇親会
乾杯の音頭をとる土生善弘代議員
談笑する代議員や茗溪会役員

『茗溪創基150年記念誌』の見本を紹介する真田久記念事業委員長
・記念誌(500部限定発行)は、8,000円での頒布予定であること、
・記念事業寄付が目標額に到達していないので、寄付受付を令和6年3月末日まで延長することなどの説明があった。

桐の花咲く頃



佐賀県支部 (6/3)

左：久原建 (S36 教大体) による万歳三唱と佐賀県支部旗
中：談笑：テーブル(A～E)は卒年順
右：3次会



大阪茗溪会 (6/10)

上：手前テーブルは「茗友会」の面々
右：桐の葉合唱



新潟茗溪会 (6/24)

上：談笑：テーブル(A～E)卒年順



桐の花は、初夏にかけて咲く。茗溪の同窓は、待ちわびたように、挙って参集した。各地で、3～4年ぶりの総会・懇親会が開催された。桐の花が咲き誇るように。



長野県支部 (6/18)

上：談笑：テーブル(A～J)は卒年順



左：宮坂雅昭(S63 筑修体)の「木遣り」
上：「桐の葉」の大合唱



長崎県茗溪会 (6/24)

上：談笑：テーブル(A～D)卒年順
下：浦下悦二(S50 教大体)による万歳三唱



一般社団法人

茗溪会 第12回 定時総会

令和5年5月18日(木) 茗溪会館にて

定時総会出席代議員一覧

(敬称略)

筑波大 伊藤純郎	東京 栗原茂夫	長野 石川裕之 (代理)	奈良 松田勝雅 (代理)
北海道 川口 淳	東京 三橋浩志	新潟 小林英明 (代理)	和歌山 川久保尚志
岩手 高橋 縁	東京 柳 久美子	富山 福島英晴	島根 西村 覚
宮城 土生善弘	東京 浅井一郎	静岡 望月保宏	山口 吉本 晃
山形 津田 浩	東京 海老沢敬子	愛知 柴田悦己	徳島 小原史明 (代理)
福島 伊豆幸男 (代理)	東京 笹 のぶえ	愛知 竹下裕隆	香川 土居真也 (代理)
茨城 中島博司	神奈川 山崎紀彦	愛知 馬場 茂	福岡 稲富 勉
茨城 高村祐一	神奈川 中道 徹	京都 三橋利彦	佐賀 松雪 誉
群馬 丸橋 覚	神奈川 佐々木悦子	大阪 戸井田克己 (代理)	大分 野尻明敬
埼玉 細田幸一	長野 志津 享	兵庫 若浦直樹 (代理)	沖縄 前門 晃

一般社団法人 茗溪会
令和5年度 第12回 定時総会

挨拶

一般社団法人 茗溪会

理事長 井 口 武 雄



明るく楽しい茗溪会

こんにちは。理事長の井口でございます。本日は大変お忙しい中、そして5月にしてはとんでもなく暑い中ご出席いただきましてありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。また、今日はアクリル板がなくなりました。アクリル板越しにご挨拶をされたり、お話をされたりするということはないということが大変嬉しく思っております。

昨年度は茗溪創基150年ということで様々な行事が行われました。7月9日にはコロナ禍の中ではございましたが記念式典を行うことができました。ただ安全を鑑みて、ご出席いただく方の

人数に制限をしなければならなかったことを深くお詫びを申し上げます。

少し行事を振り返ってみますと、先駆けの行事としましては占春園の整備を文京区と共同で行い、また茗溪・筑波産業人倶楽部の設立もいたしました。そして先ほど申し上げました記念式典と、嘉納治五郎先生の「自他共栄」というお言葉を揮毫しました扇を、式典に参加された方、ご寄付を戴いた方にお届けをいたしました。

今年が行事の最終年度でございます。いよいよ立派な記念誌ができありますが、後ほどお話があるかと思いますが、そこに見本を展示させていただいておりますので、お分かりになるかと思いますが、この記念誌ができあがります。それから茗溪・筑波産業人倶楽部の全国展開の発表会を12月に開催いたします。このことによりまして、茗溪創基150年の全ての行事が滞りなく終わるということとなります。

この様々な行事につきましては、会員の皆さま方から寄付をお願いいたしましたこと、それによって着実に実行されたことをご報告申し上げますと共に、お礼を申し上げます。高額のご寄付を戴きました方のお名前につきましては、5階のエレベータを降りた所の銘板に掲げていただいております。また、行事が計画通りに順調に行われましたことにつきましては、役員、会員の皆さま、そして関係者の方々、更に事務

局員、このような皆さま方の絶大なるご協力とご尽力によりまして行われたことにつきましてご報告を申し上げます。お礼を申し上げます。ありがとうございます。

いよいよ今年には次の200周年に向けて第一歩を踏み出すことになりました。茗溪会の長い歴史と様々な特色、これを生かしながらも改善すべきことは改善して、立派な同窓会であると評価されるように作り上げていきたいと思っております。

茗溪会は他の大学の同窓会と比べまして極めて特色のある同窓会で、長年に亘りまして日本の教育現場はもちろん、教育行政につきまして茗溪会の会員の方々が日本の中核的役割を果たしておられます。最近では茗溪会の会員の方々が産業界あるいは弁護士、会計士などの専門的職業の世界、それから官界それぞれにおきまして活発に活動されリーダーの役割を果たしていらっしゃいます。この二つの分野を明確な柱として組織づくりや活動を行ってまいりました。これからのようにしてまいります。

教員を志望される学生の方々に対する支援、在学生と産業界で活躍する卒業生との率直なキャリアについての懇談などは、いま申し上げました二つの大きな柱を着実に実現するための方策だと思っております。

素晴らしい茗溪会でございますけれど、課題があることも事実でございます。3つだけ申し上げますと、1つは会員数が減っておりますので、この減ることを止めて更に増やすということでございます。

2つ目は会員の方々の中にも会費をお支払いになっていらっしゃらない方が相当数いらっしゃいます。みんな茗溪会を作っているということを示すためにも、全員の会員の方々から会費を頂戴するというを行わなれないと思っております。

3つ目は、茗溪会は様々の財産を持っております。この茗溪会館はその最大のものであることはご存じの通りです。このような茗溪会の持つおります財産を有効に活用していくということが必要でございます。

このような課題につきまして会員の皆さま、役員の方々の皆さま、そして事務局の方々の全員の力を結集して課題を克服していかなければならないと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

明るく楽しい茗溪会を作ろうということから始めました昨年からでございますが、どうぞ皆さま方にもお力を發揮していただきまして、みんなで力を合わせて明るく楽しい茗溪会を作っていきますように。ありがとうございます。

令和5年度 茗溪会定時総会

学長挨拶

国立大学法人 筑波大学長

永田 恭介



貴会から本学への日頃からの暖かいご支援に関し、深く感謝を申し上げます。貴会の令和5年度の定時総会に際して、ご挨拶を申し上げます。

世界各地で猛威を奮った新型コロナウイルス感染症については、政府が5月8日より感染症法上の位置づけを変更し、感染対策も個人の自主的な取り組みをベースとしたものになりました。本学ではすでに昨年6月から、授業は「対面授業」または「対面授業とオンデマンドの組み合わせ」により実施することを基本的な方針として、原則オンラインサイトで実施しています。入学式・卒業式の開催、オープンキャンパスや学園祭の実施など、ウィズコロナの新しい日常が始まり、国際性豊かで若さ溢れるキャンパスが戻りつつあることを

嬉しく思っています。

さて、本学は本年10月に「創基151年開学50周年」を迎えます。記念式典などの開催に向けた準備も進めています。我が国で最初の官立高等教育機関として創立された師範学校を礎とする伝統と、開学50年で培った成果を胸に刻みつつ、更なる飛躍に向けて不断の改革を進めていく思いを新たにしています。

昨年の秋には、本学が自立した経営体として社会とのエンゲージメントを深めていくため、「筑波大学社会的価値創造債」という名称で大学債を発行しました。この債券はサステナビリティボンドと呼ばれるもので、その使途を地球環境および社会的課題解決双方に資するプロジェクトに限定しています。今後は大学債により、社会実装を目指して真のニーズドリブン型開発研究を推進する「IMAGINE THE FUTURE. Forum」(ITF.F)、バリアフリーに配慮した合宿施設やパラスポーツも可能なアリーナを備えたスポーツ複合施設である「Sport Complex for Tomorrow」、学生が産業界やグローバル社会とつながる場としての「未来社会デザイン棟」の建設に取り組んでいく予定です。

昨年4月から始まった第4期中期目標期間では、指定国立大学法人としての本学の姿を、地球規模課題を解決する真の総合大学に向けて発展すること

であると宣言しました。多様な格差や分断が顕在化する時代に、本学が世界最高水準の研究大学として学際的な協働のもとに新たな学問を創成し、未来に向けて社会が待ち望む新たな価値を創造できるよう、本年3月、文部科学省に国際卓越研究大学の認定に向けた第一次申請書を提出いたしました。

今後は、入試改革などにより外国人学生の比率を高めるとともに、世界から卓越して優秀な研究者を獲得することで、国際性と多様性の日常化を徹底したコミュニティへと変革を進めます。計画中の学生宿舎のリニューアルに伴い、学群の新入生は全員一度は学生宿舎に入居し、世界の多様な文化と価値観に溢れ、豊かな自然に囲まれた施設で全寮制に近い学修を体験することを検討しています。また、

本学の建学以来の教員組織と教育組織を分離した柔軟な教学システムを利用し、筑波研究学園都市に立地する官民の研究機関の研究者を本学の教員として

迎え、当該機関の研究環境を活用しながら研究指導等を行う連携大学院の枠組みを拡充するとともに、「ITF.F」に企業とのR&D部門を招聘して共同研究を行う「Business to Academia (B2A)」研究所を設置し、研究成果の社会実装を更に進めます。

激動するグローバル社会の中で、本学は成長戦略や社会変革のエンジンとして、貴会をはじめとするステークホルダーとのエンゲージメントを更に深めながら、社会の固定化を打破する教育・研究に取り組んでまいります。

茗溪会におかれましてはますますのご発展をお祈りするとともに、引き続き本学へのご支援をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



創基151年筑波大学開学
50周年記念事業ポスター

令和4年度決算報告

貸借対照表

令和5年3月31日

(単位：千円)

科 目	当 年 度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	84,435
未収消費税	0
流動資産合計	84,435
2. 固定資産	
特定資産	
固定性預金	38,541
投資有価証券	306,189
その他資産	
建物	573,133
構築物	2,471
機械装置	1,265
什器備品	1,115
土地	314,776
固定資産合計	1,237,490
資産合計	1,321,925
II 負債の部	
1. 流動負債	
前受金	26,700
未払法人税	10,598
未払消費税	531
預り金	279
流動負債合計	38,108
2. 固定負債	
退職給与引当金	0
満期共済金引当金	9,200
保証金	1,400,000
修繕費積立金	0
固定負債合計	1,409,200
負債合計	1,447,308
III 正味財産の部	
一般正味財産	△125,383
正味財産合計	△125,383
負債及び正味財産合計	1,321,925

正味財産増減計算表

令和4年4月1日から令和5年3月31日

(単位：千円)

科 目	当 年 度
I 一般正味財産増減の部	
1 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用収益	
地代収入	72,965
建物賃貸収入	11,220
会費収入	
正会員受取会費	12,911
若狭フェロー会費	1,579
事業収益	
委託料収入	1,813
広告料収入	2,420
寄附金	
寄附金収入	5,391
退職給付引当金取崩収入	
退職給付引当金戻入益	0
雑収益	
受取利息	25
駐車場利用収入	1,518
雑収益	2,684
経常収益計	112,526
(2) 経常費用	
事業費	
給与手当費	24,366
助成金	1,640
式典事業費	2,122
記念品費	4,400
旅費交通費	353
負担金	40
通信運搬費	5,122
印刷製本費	3,285
水道光熱費	2,582
業務委託費	11,155
租税公課	34,740
修繕費	1,799
火災保険料	876
退職給付費用	0
占春園支出	0
管理費	
監事報酬	150
臨時雇賃金	0
退職金	0
福利厚生費	47
総会諸費	835
会議費	444
旅費交通費	631
通信運搬費	1,424
什器備品費	480
消耗品費	728
印刷製本費	1,131
集金費	1,819
諸謝金	804
負担金	28
会員データ管理費	2,232
渉外費	7
賃借料	592
減価償却費	27,948
雑費	40
経常費用計	131,820
当期経常増減額	△19,294
2 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	5,500
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
固定資産除却損	5,500
経常外費用計	0
当期経常外増減額	△19,294
当期一般正味財産増減額	△106,089
一般正味財産期首残高	△125,383
一般正味財産期末残高	△125,383
IV 正味財産期末残高	△125,383

収支計算書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

(単位：千円)

科 目	当 年 度
I 事業活動収支の部	
(1) 事業活動収入	106,544
会費収入	14,490
正会員会費収入	12,911
フェロー会費収入	1,579
事業収入	88,418
地代収入	72,965
建物賃貸収入	11,220
委託料収入	1,813
広告料収入	2,420
寄付金収入	94
寄付金収入	94
雑収入	3,542
駐車場利用収入他	1,518
受取利息収入	25
その他雑収入	1,999
退職給付引当金取崩収入	0
退職給付引当金取崩	0
(2) 事業活動支出	96,531
事業費支出	85,351
管理費	11,180
事業活動収支差額	10,013

※150年記念寄付会計は含まず

令和5年度 一般社団法人 茗溪会 事業計画

1. 事業計画のねらい

- (1) 茗溪創基150年記念事業の推進を図り、将来を見通して、より積極的な事業展開を目指す。
- (2) 地域組織等の活動の充実・活性化事業を推進する。
- (3) 地域組織を基盤に、教育界と産業界（官界を含む）を二本立てとして組織化を推進する。
- (4) 正会員の増加及び会費納入率アップのための組織的・計画的な活動を推進する。

2. 事業の目的（定款第3条）

会員相互の親睦及び互助並びに知徳の啓発を図り、併せて国立大学法人筑波大学の目的及び使命の達成に協力し、学術、文化、教育並びに社会貢献活動及び国際相互理解の促進に資する事を目的とする。

3. 事業の内容（定款第4条）

- (1) 会員相互の親睦や共益を図るために以下の事業を進める
 - ① 教育界各組織の活動推進
 - ② 産業界・官界各組織の活動推進
 - ③ ネットワークの充実による交流促進
 - ④ 追悼のつどいの実施
- (2) 定期刊行物の発行に関する以下の事業を進める
 - ① 季刊誌「茗溪」の発行
- (3) 地域組織等の会員の教養向上に資する以下の事業を進める
 - ① 地域組織等主催による公開講座への助成及び講師派遣
- (4) 学術、芸術、社会貢献等の課外活動に対する支援、顕彰等に関する事業を進める
- (5) 財産の管理・運営に関する以下の事業を進める
 - ① 茗溪創基150年記念事業を機とした財政の再編強化
 - ・会費の増収を図るための施策の立案と実施
 - イ 会員名簿を整備し、各地域組織等との連絡調整態勢を確立する
 - ロ 新会員の入会促進策の立案と実施
 - ハ 会費未納者への入金促進
 - ニ 広告収入の増収
 - ② 茗溪会館の利活用
 - ③ 地代の安定確保及び適切な資産運用
- (6) 教育の振興、普及活動に資する以下の事業を進める
 - ① 筑波大学との連携による学生のキャリア形成
 - ② 教職希望者の育成及び研修会の開催
- (7) 茗溪創基150年記念事業の推進
- (8) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

4. 前項の各事業は、全国において行うものとする

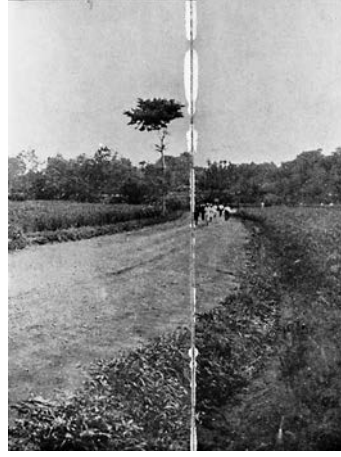
令和5年度予算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

(単位：千円)

科 目	令和5年度予算			科 目	令和5年度予算		
	会費事業会計	資産会計	合計		会費事業会計	資産会計	合計
I 事業活動収支の部							
1. 事業活動収入				印刷製本費支出	2,847	0	2,847
(1) 事業活動収入				租税公課支出	0	35,593	35,593
会費収入	14,490	0	14,490	業務委託費支出	3,300	7,623	10,923
正会員会費収入	12,911	0	12,911	光熱水料費支出	0	2,621	2,621
フェロー収入	1,579	0	1,579	火災保険料支出	0	876	876
事業収益	2,460	90,258	92,718	修繕費支出	0	4,000	4,000
地代収入	0	76,248	76,248	管理費	8,610	3,142	11,752
建物賃貸収入	0	12,197	12,197	監事報酬	0	150	150
委託料収入	0	1,813	1,813	給料手当	0	0	0
広告料収入	2,460	0	2,460	臨時雇賃金	0	0	0
寄付金収入	0	0	0	福利厚生費	0	35	35
寄付金収入	0	0	0	総会諸費支出	1,300	0	1,300
雑収入	0	3,188	3,188	会議費支出	500	0	500
駐車場利用収入	0	1,188	1,188	旅費交通費支出	600	0	600
受取利息収入	0	0	0	通信運搬費支出	1,300	0	1,300
その他雑収入	0	2,000	2,000	集金費支出	1,600	0	1,600
積立預金引当金	0	3,682	3,682	什器備品費支出	0	756	756
受取利息収入	0	3,682	3,682	消耗品費支出	0	730	730
事業活動収入計	16,950	97,128	114,078	印刷製本費支出	1,000	0	1,000
(2) 事業活動支出				会員データ管理費支出	2,300	0	2,300
事業費支出	16,439	75,197	91,636	諸謝金支出	0	800	800
給料手当支出	0	24,484	24,484	負担金支出	0	29	29
助成金支出	4,100	0	4,100	渉外費支出	10	0	10
式典費支出	400	0	400	賃借料支出	0	592	592
旅費交通費支出	800	0	800	雑支出	0	50	50
負担金支出	240	0	240	予備費	0	0	0
通信運搬費支出	4,752	0	4,752	事業活動支出計	25,049	78,339	103,388
				事業活動収支差額	△8,099	18,789	10,690

年会費と 学生支援



第2回長距離競争

明治34年12月、全校生徒600人が長蛇の列を作って武蔵野を疾駆する。以降、長距離走は恒例となり、茗溪の伝統となった。

当時、走るときのスタイルは、長袖のシャツに膝下まであるパンツをはき、兵児帯を巻いて、紺の脚絆に草鞋がけという珍妙なものであった。

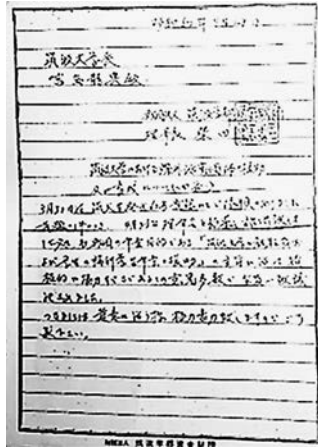
『写真集 東京教育大学百年』所収

●茗溪の学風

『茗溪創基150年記念誌』編纂のために資料蒐集をしていると、思いがけない資料に出遭う時がある。

左の資料は、昭和52年春、茗溪会理事長柴田周吉が筑波大学学長宮島龍興に宛てた回答である。直筆だろうか。

野紙下に、(財)筑波学都資金財団とある。当時、茗溪会は五法人からなり、茗溪会理事長が兼務していた。財団もその一つで、筑波研修センターの経営や平砂など学寮の管理運営に当たっていた。学生支援に直接あたる前線基地ともいえた。



回答は以下の内容であった。

「3月30日付筑大生発内62号貴信にてご依頼のありました主題の件につき、4月25日理事会を招集し諮問致しました処、当財団の事業目的である「筑波大学の教職員および学生の福利厚生事業の援助」の主旨に沿って積極的に協力すべきであるとの意見多数で全員一致議決されました、つきましては貴意に沿う様極力尽力致しますので、ご了承下さい。」

「3月30日付筑大生発内62号貴信にてご依頼」の内容とは、「筑波大学における課外活動団体の援助及び育成について(依頼)」であった。当然のことながら、筑波学都資金財団の理事長宛である。

「本学における学生の課外活動が、大学の教育目的に即して発展し充実していくためには、物心両面にわたる援助が是非とも必要であると考えられますので特段のご配慮をお願いいたします」とある。

依頼の文面に、「本学の課外活動」は、「東京教育大学の伝統」を受け継ぎつつ、更なる振興を目指したいとあった。

「東京教育大学の伝統」とは、教育の根幹の一つとして課外活動を重視した「茗溪の学風」をいう。

●森有礼の「教室外の教育」

森有礼は、教育を学問中心の「教室内の教育」と学校外における日々の行動を含めた「教室外の教育」の二種に分け、内を六分、外を四分とした上で、「教室外の教育」を推奨して述べている。

「日本人は元来此緊要なる教室外教育を怠り日常の万事に不規則なることに実に甚し、是本邦人の弊にして其の結果は遂に難事に堪ゆる能はざるに至るなり、此教室内外の教育相俟て完全なるときは始めて小成に安せず難事に堪ゆるの気風を生すべし。」

森の「教室内の教育」と「教室外の教育」という発想は、厳格な規律による気質の涵養を期待したものであった。

●嘉納治五郎の「教室外の教育」

嘉納治五郎が東京高師の校長に就任したのは、明治26年である。以降、「教室外の教育」は課外活動として制度化されていく。

明治29年、運動部を統括する「運動会」が設立された。その後、嘉納は文部省普通学務局長に転出するが、明治34年に再び高師校長となると、寄合会、校友会、そして運動会をまとめて「校友会」とし、談話部会(談話部・雑誌部)と運動部会を設置している。

校友会発足の根底に、嘉納の教育観がある。学生の本分を「善美の学風を作すにあり。学生各自相知り、相信じ、所期を遠大にして、生活を楽しむに在り」と述べ、そのためには、「時として親睦会を開く、時として演説会を開く、遠足会を開くべし」と課外活動を奨励し、その中で最も有効なるは、「運動遊戯をともにするにあり」というのである。

「運動の盛んになるところに元氣あり。元氣の充実するところに進取の活動あり。学風を以て興り、校運をもつて進む」ともいう。

嘉納は着任の翌年から陸上運動会を開催した。その後、校友会主催により盛大となり、会場も茗溪の地から本校移転予定地の大塚台に移して大規模に開催された。



来館者で賑わう陸上運動会(正午からの来館者は2万人を超えた。明治39年頃)『時事新報』に以下の記述がある。「全生徒600名一人も欠かさず、何れかの競技に加わりて競走場裡に現るること、劣者敗者が後るとも終わりを全うする美風は、他の得て模すべからざる所のものたるべく」と。
『写真集 東京教育大学百年』、p53所収

「校友会規則」には、「本会は精神の修養及び身体の鍛錬を計り兼ねて会員相互の親睦を厚くするを以て目的とす」とあり、校友会活動は、「教員養成プログラムと連動させて実施する」という意図とともに、「運動遊技を中心として、人間形成の手段と捉えられ、嘉納時代の重要な教育方針ともなった。以後、「茗溪の学風」として、東京高師、東京教育大、そして筑波大学にまで及ぶ。

●校友会 嘉納時代の「校友会」と平成30年に設立された「筑波大学校友会」とは別である。
戦前は、旧制諸学校の課外活動の上位組織として校友会が存在した。現在では、同窓会と同じ意味合いで使われることが多く、一般的にはその学校の卒業生を中心に組織されるネットワークを指す場合が多い。平成16年、国立大学の独立法人化に伴い、全学的な同窓会として「校友会」を設立した国立大学は多い。

●筑波大学生の課外活動
柴田理事長が宮島学長に回答した年の夏、発起人会が開かれた(7/15)。在学生保護者代表(4名)と財団代表者(理事長、理事4名、大学から宮嶋学長、大石副学長、山中担当副学長、鈴木企画調査室長、課外活動担当の学生担当教官、学生部部长及び課長が出席し、こうして、筑波大生の課外活動の助成を目的とする「紫峰会」が発足した。会の構成は、在学生の保護者、筑波学都資金財団及び茗溪会、それぞれの有志からなった。会の代表は茗溪会及び資金財団の理事長でもある柴田が務めた。

課外活動は、「筑波大学における学生の課外活動団体の組織等に関する規則」の下に、その組織化が進められ、学長から認可を受けて学内に設立した「課外活動団体」と「一般学生団体」などの団体が活動している。体育会の中には、蹴球部(明治29創部)や軟式庭球部(明治21創部)のように、高師以来、連綿と続いてきた部もある。

「課外活動団体」は、「サークル館等の学内施設の使用や課外活動用具の貸与等について、他の学生団体に優先して便宜供与されるとともに、本学の名称を冠して学外の団体に加入することについても優先して認められます。また、大学から活動に対する資金援助も行われます」と、筑波大学ホームページに説明がある。

●コロナ禍の中の課外活動
新型コロナウイルスに伴い、課外活動は不便を強いられた。コロナ感染拡大前から現在までの学生団体数の推移について、学生生活課の課外活動支援係に問い合わせ、回答で得た数を表にしてみた。

下表を見る限り、5年間に若干の変動はあるものの、大きな変化が特段見られない。

茗溪会は、大学における課外活動が再開されたという報を受けて、学生活動支援の案内を、大学の担当部署や各学類や三系に向けて発した。5月31日は、学生活動支援の申込締め切り日であった。

令和2年以降、新型コロナウイルスにより支援対象がないということで中止に追い込まれたが、その前年の令和元年の応募団体数は19団体で、例年20団体以上が応募していた。

茗溪会による課外活動支援を受けてきた団体の中には、「必ず応募するようちに」と先輩から後輩へと代々引き継いできた団体もあると聞いたことがある。活動が一時中断したことで、引継ぎが途絶えた団体もあるのかもしれない。あるいは、登録団体の中でも活動再開に手間取ったり、部員が戻ってこない団体もあると聞く。

課外活動は、茗溪の学風である。伝統を絶やさないためにも、こころ一番、なお一層の支援が必要である。

3系所属及び一般学生団体数

年度	文サ連	体育会	芸サ連	一般団体
R1(2019)	35	72	30	107
R2(2020)	34	71	30	111
R3(2021)	35	71	30	100
R4(2022)	33	71	30	105
R5(2023)	33	71	30	107

上記の数字は、各年度末の課外活動連絡会にて承認された団体数(4/1付け)で、一般学生団体(サークル連合に所属しない団体)については、別途承認の手続きの関係で微増減がある。

第37回 教職受験対策研修会から

第37回教職受験対策研修会を、教職を希望する筑波大学生を対象に令和5年2月17日(金)から18日(土)までの二日間、筑波大学体芸棟5階の3教室で開催しました。また、「教職研修グループ」(代表 高橋基之 本会理事・S53 筑一自然)を中心に茗溪会主催・筑波大学共催で運営しました。しかし共催の決定が遅れたこともあってか、今回の受講生は11名(当日欠席2名)にとどまりました。

【第一日】

*開講式

高橋基之氏、筑波大学体育系体育・スポーツ学 教職担当 准教授の三田部勇氏、筑波大学学生部就職課(DACセンター)横田英樹氏の3人から本研修会の歴史や意義など、受講生を激励する挨拶をいただきました。

*講義Ⅰ「教員採用試験の分析と対応」

*講義Ⅱ「論文のポイントと課題例」

秀明大学教育研究所教授で茗溪会教育相談窓口でもある渡部 徹氏(S57 筑一人文)による講義で、理念と評価の一致・確かな学力など新教育課程の重点項目、受験生に求められる教師像、全国の教育を牽引する役割を担ってきた本学同窓生の活躍、教育界を担う受講生への期待など、教育の意義・目標・



渡部氏の講義

教師像・大学の取組み・採用試験などについて熱く語られました。受講生からは採用試験の実態がよくわかり、本気で取り組む必要があると感じたなどの感想がありました。

*演習Ⅰ(論文作成)

論文作成について、テキスト記載の「論文作成のポイント」に基づいて高橋基之氏から説明があり、与えられたテーマに対する論文を受講者全員が約2時間で作成し提出しました。この論文は、第二日の講義Ⅲまでに指導助言の先生方が添削し、論文文検討の時間ではそれらを各班で共有し検討し合いました。

*演習Ⅱ(個人面接)

*演習Ⅲ(集団面接・集団討論)

グループAは高橋基之氏と春山賢男氏(本会理事・埼玉支部長・S55 筑一自然)、グループBは渡部 徹氏と植木

邦夫氏(社会連携課教職サポートルーム相談窓口・S58 筑二人間)が担当し、2グループに分かれて演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを行いました。

個人面接

各班を受験者1名、面接官数名のグループに分け、それぞれの役割を演じることで個人面接を実施しました。5分程度で次々に交代しグループ全員が終了したところで評価表を用いてフィードバックを行い評価しました。これによって個人面接の客観的なイメージが把握できたと思います。実際の面接試験同様の形式で練習ができた。自分の話し方のクセに気づくことができた等の感想がありました。

集団面接

各班を受験者チームと観察者チームに分け、指導助言の先生とチューターが面接官となり、志望動機、部活、A Lなどの課題に集団で答えました。観察者チームからの個別のフィードバックによって集団面接について良い知見が得られたと思います。

集団討論

各班の5〜6名全員が、課題の選択(配布資料)・結論・根拠・発言等について5分程準備した後、集団討論を演じました。その後、指導助言者とチューターから課題への向き合い方、発言内容等についてアドバイスを受けました。



集団討論



集団面接

【第二日】

*講義Ⅲ(受験体験談)

教員採用試験に合格した学生・院生3名がテキストに記載された各自の合格体験記に基づいて全体及び各別に体験発表を行い、今年度の受講者の疑問や質問に丁寧かつ的確に答えてくれました。受講生にとって、受験の生の声を聞くことができ、対策を立てるための貴重な情報になったという回答が多く寄せられました。

①石田慈音さん 教育学類

埼玉県 高校 理科

②長堀巧さん 教育学学位PM

埼玉県 高校 英語

③宮崎彩穂さん 教育学類

長野県 小学校

*講義Ⅳ(論作文講評)

指導助言の先生が添削した論作文を班員配布し、各作成者が音読し、指導助言の先生が添削箇所について説明し、論文の構成などについて講評しました。

*演習Ⅳ(論作文作成)

講評を受け、与えられたテーマに対する論文を受講者全員が再作成し、各自、見直しと再構成を行いました。自分の意見を的確に伝えられるようにすることや、根拠を明確にしつつ謙虚な文章を書くことの大切さを学んだという意見がありました。



大根田氏の講義

*講義Ⅴ(模擬授業の解説とポイント)

元筑波大附属中学校教諭の大根田裕(S54筑一自然)による講義で、模擬授業のポイントやその狙いについて具体的な事例を基に模擬授業が行なわれ、何をさせるか、どのような準備をするか、おさえるべき点等について学び、「主体的・対話的で深い学び」の姿勢を模擬授業に盛り込むかについて学びました。具体的に対面で実践を学べたのが良かったという意見が見られました。

*演習Ⅴ(教育事情・教員採用試験等について質疑応答)

この研修会の運営代表者でもある高橋基之氏と春山賢男氏による教育事情・教員採用試験等について質疑応答がなされました。



高橋基之氏

教育の意味、教育者としての本来的なあり方について、また現在の教育者が直面する現実について体験を交えながら分かりやすくかつ熱い説明がありました。受講生からは、学校教育現場の実態、地域や外部機関との連携で対処することに感銘を受けたという感想等がありました。

*閉講式

高橋基之氏から、この研修会の教職受験での生かし方、合格後の心構え、教育界における茗溪会の役割などについて熱意のある講話がありました。その後、この研修会のアンケート集計や情報交換を行いました。

【振り返り】

今年度も「大学つくば地域支援委員会」(委員長 佐藤忍 本会理事)の中の「教職研修グループ」(代表…高橋基之



春山賢男氏

本会理事)が運営し、グループのメンバーの多くが指導助言の役割を担いました。各自自治体での教職受験についての相談窓口を各地域の会員の方にお願ひしてきましたが、次回も受講生の相談や茗溪会への入会サポートなどをしていただけると幸いです。

受講生からは、この研修で教職受験について理解できたので対応する心構えができた、などの感想がありました。また、2次試験直前に、例えば個人面接などの研修があったら是非参加したいという要望が多数ありました。

なお、二次試験対策については、昨年までは研修会場を茗溪会館(東京)と筑波大学の2か所開催で実施してきましたが、学生たちが参加しやすいう、研修会場を筑波大学に一本化し、筑波大学と共催で実施するよう計画しています。

(文責 事務局 大根田裕)

「教育における茗溪の伝承と創造」

令和5年2月25日

江田昌佑



●はじめに

コロナ禍、ウクライナ情勢、異常気象、社会の格差と断絶、物価の高騰等々、社会の不透明を感じる昨今です。そして、身近な問題として我が国の教育の諸問題も大きな課題です。現在の不安定な教育界が抱える諸問題に何が大事か。情熱的な議論と実践を呼び戻したいと思っています。茗溪会は日本の教育を担ってきた連綿とした歴史があり、幸い、茗溪会の有志が教育人材セミナーという形で、気運を高めているのではないのでしょうか。今日は、議論と実践の大切さを考えながらお話をしていきたいと思えます。

●嘉納治五郎先生

嘉納治五郎先生は「教育のこと、天下これより偉なるはなし。一人の徳教、広く万人に加わり、一世の化育遠く百世に及べり」という言葉を残しておられます。教育の感化力は偉大です。そして、若い頃の事は将来まで影響します。

●松下村塾と郷中教育

私の若い頃の話ですが、国民学校で吉田

松陰に傾倒していた山田先生という校長先生に出会いました。毎朝一時間目はその先生に、松下村塾の教えを学び、大きな影響を受けました。朝昼晩、私は松下村塾の塾生になったような気持ちで生活したような気がします。松下村塾からは高杉晋作・伊藤博文・山形有朋等、明治の時代をつくった人材が多く輩出されております。片や薩摩藩では郷中教育です。区立塩穴旧制中学校の担任は、西郷南洲に傾倒しておられた今井先生で、「敬天愛人」という言葉をこの頃に初めて知りました。郷中教育によって、長州と同じように日本の近代化に力を尽くした大久保利通・西郷頼道等を排出しましたが、西郷隆盛は「薩摩へこにせ(薩摩の若者)」の代表的な人物です。私は国民学校、中学校で時代の要請により忠君愛国の教育を受けましたが、それでも、師の教えは少年だった私の心に大きな火の玉、血潮となり残りました。

長州、薩摩が明治の時代をつくったと言っても良いのではないかと思います。教育の在り方はちよつと違います。松下村塾は個人の教育を中心とした個性教育と言えないのでしょうか。片や郷中教育は子供から大人が集まった集団教育と言えるのではないのでしょうか。この個性教育と集団教育を受けた人材が一緒になって明治の近代化を推し進めたと言っても間違いではないと思います。そこにまた、大阪の適塾出身の福沢諭吉のような人材も加わり、明治の日本をつくりあげる原動力となったのだと思います。

●青春時代とラグビー

終戦を迎えた中学二年の終わり頃からラ

グビーを始めます。その頃、授業はできない、教科書もない、剣道・柔道はできなくなっていました。ラグビーだけは、海軍系の学校が訓練代わりに行っていたことから、教育の場でも早く復活しました。そこからラグビーに魅せられることになりました。中学三年の春、高等師範出身の丸岡先生が復員され、ラグビーは強くなつていきます。旧制中学を6年かかって卒業しましたが、4年間ほど指導を受けました。丸岡先生にラグビーを本格的に教わり、のめり込んだ日々でした。終生この先生の背中に追いかけて歩むことになりました。両親ともに教師でしたが、父が早く亡くなり、母に育てられ、家が関西だったこともあり京都大学に願書を出していました。しかし、恩師の丸岡先生が東京教育大学文理科に願書を出してくれて、結局、最終的にそちらに入学することになりました。大学に入ってから先輩、同胞、後輩に恵まれ、その恩恵は大きかったです。少年時代の在り方というものは、こういう人達に支えられ、大きな感化を受け、良いも悪いも様々なことを教わり、刺激を受けてこれが土台になつていくような気がします。

実は、昭和23年の暮れから24年の正月にかけて、高校の大会が東京ラグビー場で行われ、その大会に出場することになり、その時、茗溪会館に宿泊をしています。この会館だけは、空襲を逃れ瓦礫の中に奇跡のように残っていました。高等師範出身の丸岡先生のお力添えで宿泊が叶ったようです。食料として各自お米を持参しましたが、東京在住の先輩方が賄いしてくれました。銭湯は大塚坂上に行きました。あたり一面瓦礫でしたが中央大学のグラウンドの向こ

うにお汁粉屋さんがぼつんと一軒ありました。昔都電の車庫があり、その向こうあたりでしたか。高等師範はまだ瓦礫だったの練習グラウンドは附属中学校をお借りしました。昭和24年の正月前後に茗溪会館に宿泊したことは心に残り、この会館に思い入れもあります。試合は、決勝で秋田工業に負けました。大西鉄之助さんは早稲田の名監督でしたが、その方にレフェリーをしてもらいました。実は、この年は、腰を痛めていて試合には出場できなかったのですが、来年度のキャプテンとして大会を経験をさせてもらいました。貴重な体験でした。

●江崎玲於奈先生

ノーベル賞を受賞された江崎玲於奈先生は大阪出身で私と同じエリアのお生まれです。中学は京都府同志社中学、三高(現京都大学)へ進学されましたが、良く二人で大阪弁で話をしました。ある時教育について「教育には大きな柱がある。一つはpublic、もう一つはindividual」という話をされました。Publicと言うのは「公民の、国民の」また「義務教育」というようなことで、individualというのは「個人の、個性の」、あるいは「エリート教育」もこの範疇なのではないでしょうか。アメリカは、個性の教育を早くから始めます。日本は公民の教育が主で世の中のプラスになるような万民への教育でした。しかし、日本も、大学は個性の教育に力を入れたいとだめですとねと言うのが江崎さんの心情でした。私もそう思います。子どもの英才教育はむやみやたらにやるべきではありませんが、もっと個性というものがない日本人にあって良いのではないかと、言う気がいたします。アメリカのように、

小さい時からそれを主にしてというのではなく、やはり両方が教育には必要でしょう。江崎さんは、個性の教育を重視すべきという考えだったように思います。

●石川忠雄先生

1996年中教審の改定で保健体育審議会には8年間関わっておりました。

最後の答申の時は慶応大学の塾長で東洋史の石川忠雄さんが、「青少年健全育成第4の領域の育成」についてお話しされたことが心に残っています。「従来の学校、家庭、地域社会とは違う第4の領域というものを育成する必要がある。それは地縁的なものよりも目的志向的な団体・サークルの育成や日常生活圏を離れた広域的な活動の場や機会の充実をはかることに努める（共同生活・自然体験・生活体験などを積極的に）」というもの。共同生活・自然体験・生活体験などをもっと教育の実践の場に取り入れる必要があるのではないかということです。学校、家庭、地域社会とはもともと違う、目的志向的に集まる、そんな団体・施設をつくる必要がある、そういう在り方を行政は示す必要があるというのが石川さんのお考えでした。そこを次の教育で体育・健康の領域の目指すところだということでこの文章を資料で提示させていただきました。

この時は、このような時代でした。学校体育分科審議会会長をやっていた時答申を出したわけですが、小杉文部大臣の時諮問を受けて10ヵ月かかって答申をしました。出したのは町村文部大臣。この方は、日比谷高校でラグビーをされていました。答申がまとまった時には、ラグビー関連の話をしました。

そして、部活の問題が出てきますが、当時は私の認識としては、部活動は高三までやりすぎると燃え尽き症候群になったり、膝・足首・腰のスポーツ障害をおい、故障者ばかりがスポーツ界に残るのではないかと思ったので、部活のやりすぎを是正したいと思っていました。そのためには、「地域」をもっと育てていかなければいけないので、指導者の育成が必要です。体協とドッキングして、指導者を育成する指導者養成講座というものを民間で立ち上げました。大学の体育学部などでは専門の指導者の資格が取れるように勤めていましたが、文部省は「大学は資格を与えるところではない」と承認しませんでした。しかし、当時、「やりすぎ」ということは多くの人の同意を得ました。そして、監督が勲章をもらうべきではないし、監督の名譽のために「やりすぎ」になってはいけないというのが一般論でした。

●現在の教育現場の身近な諸問題

最近の教育現場の諸問題ですが、部活の問題は先ほど少しお話ししましたが、部活動が内申書（調査書）でどれくらい比重がおかれているのかという、内申書と入試の問題。高等学校では特にそうです。不登校問題は、十数年前から。教科書のデジタル化も議論されました。紙、デジタル、両方の利点があるから調整して使用すれば良いというようなものなのに、「どちらか」という議論をしました。これも大きな問題です。教員不足の問題では心の病の教員の数の多さも驚きますが、まず、教員希望者が少ないです。それで、最近では、採用試験の前倒しということになります。少子化で、教員数を抑えてきたのに、文部科学省がこ

のような長期見通しの無い施策をとらねばならないということはおかしいのではと思います。それから、教育にかかる費用も問題です。幼稚園から高校卒業まで、私立だと1838万円、公立だと574万円かかるそうです。これだけかかると、一般家庭では夫婦共稼ぎでも大変です。それで、「子供はいらない」、「結婚しない」などということにもなっていくきます。無償化などの話もありますが、日本では教育問題を政治で取り上げるが、教育に予算をかけないできました。先進国の中で文教関係にかける予算が一番低いのは日本です。

部活動の問題も2025年には地域に移行したいと言っています。現場は大混乱だと思えます。教育現場では、今、様々な書類作成等がとて多く、部活動だけが教員の実務時間を圧迫しているわけではないです。地域に任せられることなどを精査する必要があります。

●教育者の心得

教育は人間の尊厳にかかわり、大切にしなければ重要な役割を担っています。人に対して、特に子供に対して大人がものを言う場合には、子供は良いも悪いも、吸収してしまうのでゆめゆめおろそかにはできないのです。教員、教育者にとって何が大切なのか。人間の尊厳にかかわることですから、「こうしたらよい」、「こうしよう」と言うには自信が大切です。情熱が必要です。そのためには、自らを律し、自らを高めるべく何をすればよいのか。多くの仲間と共有して交流をはかり相互啓発に努めることが大切です。茗溪会は「一般社団法人」であり、「OB会」という集団でもありません。かつては

教育が中心であったこともありますが、人と人が合うその真ん中に我々はいます。

●そして、私の願い

茗溪会の在り方、歴史的、文化的所産は自己啓発であると思っています。相互扶助という言葉がありますが、相互に啓発するという言葉があり、人と会うことが大事です。教育は、人と人が接することです。知識だけでなく、人によって感化を受けてそれが刺激になって「育成」するのだと思っています。相互啓発に努めることこそ自らを高めることになるであらうと思っています。教育に対する情熱とか信念が必要なのは言うまでもありませんが、気持ちとか心ではなく、強いというよりも *joist* (タフ) な心が必要です。普通に強いというよりも固くて弾力があり粘りや柔軟性もある強靱なタフな心です。そして情熱信念を持ち続けるより強力なものにしていく硬くて弾力があり、また、粘りや柔軟性がある心が必要です。例えば、弾力があり、噛めば噛むほど味が出るというこんにゃくのようなもの。自らを律し、自らを高めるべしと言いましたが仲間と切磋琢磨すること、仲間と交流し、議論をすること、そして思うところで行動すること、これが教育者には絶対必要。独りよがりはいけません。人と人が多く集まり議論し、練り上げた自分の意見を表に出すことが大切。それが自らを高めることになります。教育に関わる熱い議論を行い、このようなセミナーを契機に、発展させていってほしいと願います。このような不透明な世の中ですから、茗溪の皆さんが議論し、議論をひろげ、大きな力となっていってほしいというのが私の願いです。



教官と学生だろうか？場所は高師構内のようだが、年月日は不明である。小松氏（最後列左から4人目）のお嬢様からお預かりした写真だが、この中に、心当たりの方やご親族の方はいらっしゃいませんか？

Peer Garden

茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？

そびゆる数学像の裾を
ひそかに支えることの意味

●昭和20年 高師入学

茗溪会が大切にしている行事がある。茗溪会創立3年目から続けられてきた「合祀慰霊祭」で、現在は「追悼のつどい」として執り行われている。

午前の追悼式に引き続き、午後は懇談となる。ご遺族や茗溪会役員、当日の手伝いの学生も懇談に加わる。懇談の席で、ご遺族が故人を偲ぶ場面がある。

感慨深いお話に触れる機会が多い。

故・鈴木等（S26理四）氏は、「花巻から上京し、勉学でも大変不便をし、勉強するための灯かりを求めて終電まで山手線の中で勉強をしたこともあるそうです」と、奥様はお話しされていた。

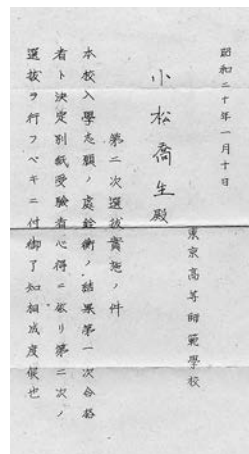
故・山口一巳（S24文四）氏のお嬢様は、遺品を整理していた時の思い出を語った。「（父が）学生時代に買った古いコンサートのプログラムが出てきました。カルメンのレコードを買ったが、レコードをかける蓄音機がなく、貸してくれる人を探し回っていた」と、学生時代のお友達から伺ったという挿話であった。

昨年の「追悼のつどい」に、山口氏と同じ年に入学した小松喬生（S24理二）氏のお嬢様が参列されていた。文京区小石川にお住まいということ、

後日、貴重な遺品をわざわざお届けいただいた。

入学許可証、ノート、成績票、参考書そして写真など、貴重なものが多い。「成績票もありますが、大丈夫ですか？」「《故人情報》ですからかまいません」とお嬢様は笑って応えられた。

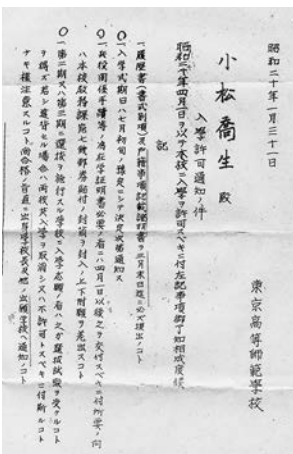
●東京高等師範学校に入学する



小松喬生宛に東京高等師範学校から第二次選考の通知が届いたのは、昭和20年1月10日のことである。紙質も悪く、粗末な通知書である。

その20日後に、「四月一日を以て本校に入学を許可すべしに付」と合格通知が届いた。

だが、「入学式期日は七月初旬の予定にして決定次第通知す」とある。



続く項目に、「兵役関係系統等の為在学証明書必要の者には四月一日以後之を交付すべしに付所要の向は本校教務課宛七銭郵券添付の封筒を封入の上下附願を差出すこと」とあるように、戦争は続いていた。

山口一巳や小松喬生の入試とその後様子は、彼等と同じ入学生（S20文二）が思い出（『写真集 東京教育大学百年』143頁）として記している。

入試は大塚構内で実施された。「太鼓の合図で教室に入り」、筆記試験が行われ、「午後からは1000メートル競走が行われ、5分以上は落第とされたので受験生は必死に走った」。

小松喬生に第二次選考通知が届く十日ほど前に、大本営は本土決戦を決定し、3月6日に国民勤労動員令を出した。

合格通知交付の後、動員先で待機させられた。入学式は盛夏（7月23日）に、日光高等女学校の校庭で挙行された。

高師生の勤労動員先は日光の古河製造所であった。終戦は日光で迎えたが大塚で授業が再開されたのは、10月に入ってからである。教室は、W館（西館）の地下であった。

東京大空襲は、3月10日の下町大空襲に始まり、5月24、25日の山手大空襲で東京を壊滅させた。この日、東京高師も学生寮（桐花寮）とともに焼失した。

廃墟となった大塚の地に 昭和23年4月に入学
海兵、陸士、陸幼、予科練や新制高校の混成組
戦災の焼け跡に ぼつり残ったW館
50余名 理一数学専攻生
解析概論、数理統計学に代数論、追試を誇る力学
戦争で知に飢え、食に飢えた学徒たち
東京高師は、東京教育大に昇格し
吾らは東京高師、最後のしんがり生
落第・留年は許されず、バイトしながら必死に勉学
昭和27年3月晴れて卒業
吾らは誇り高き東京高師最後の卒業生



空襲で破壊された大塚構内
『写真集 東京教育大学百年、p145所収』

『茗溪』1016号掲載文の形式変更及び一部割愛した

W館と茗溪会館だけが焼失を免れた。
『茗溪創基150年誌』は、松原達哉(S
27理一)の文を掲載している。

山口や小松とは三年後輩ではあるが、
教科書も教材も乏しく、教科書は「各
自古本屋を回って捜した」状況は、そ
れほど変わっていない。

松原の前年に花巻から高師に入学し
た鈴木等(S26理四)は「灯かりを求め
て終電まで山手線の中で」勉学に励んだ。

小松喬生は、三重県立師範学校附属
尋常高等小学校に入学し、三重県立津
中学校を卒業して高師に入学する。受
験の時は錦糸町の叔父宅に宿泊したが、
東京大空襲で焼失し、叔父も洋上で戦
死した。

同年に入学した林昭二(S20農教)の
回想を『茗溪』1116・春号で紹介
したように、駒場に学生寮が開設され
たのは、昭和20年秋で、初めに、中寮
と南寮が開かれた。戦地や動員先から
続々と復員・帰校してくる学生のため
に、急遽開設された。

「中寮は約30室で各部屋には板の台
が置かれ我々はこれを寝台と呼んだ：
夜になると寝台や板壁の隙間から南京
虫がはい出してきて首筋や手首をやら
れた。」と、劣悪だが雨露は凌げた。

昭和23年に入学した中川誠が回想し
ていた桐花寮についても、『茗溪』は以
下のようで紹介した。

寮生は「飢えた敗残者の群れ」のよ
うで、「陸海軍からの復員者と高校の
落武者が多く、共同体意識がほとんど
なかった。敗北感が充満していた。た
だ自分の胃袋の事ばかり考えていた。
背中を向けてココソコと食べる同室者
もいた」。

このような光景を、中川は、「不幸な

時代の不幸な境遇での不幸な出会いで
あった」と表現した。

護国寺多宝塔前で撮った小松喬生本
人の写真がある。その中に、「going
my way」と記されている。



小松は寮生ではなかったが、「戦争
で知に飢え、食に飢えた」学徒の一人
として、焦土と化した帝都の地で、歩
むべき「我が道」の第一歩を踏み出そ
うとしている。「我が道」とはなにか？

「追悼のつどい」の同じ懇談の席で、
故・小池清治(S39教大國)氏のお嬢様
は、「父は、かつて自分が先生や先輩方
からしてもらったように、生徒たちを
教育したい。同じように学校を好きに
なってもらいたい。同じように面白い
なと思って勉強してほしいと考えてい
ました」と、ご父君を偲ばれていたが、
当時の高師生は、「新しい教育の先兵
たらんとの意気強く、新教育を主導し
ていくのはわれわれだとの自負に燃え
て」(前掲書145頁)、身丈以上の使命感
と気負いとともに、焦土へと一歩を踏
み出したにちがいない。

次回も、小松喬生とその時代を綴ろ
うと思う。資料はある。

思い出の品々の寄贈(お願い)

茗溪創基150年記念事業

「茗溪創基150年記念事業」への参加のあり方として、「思い出の品々」を寄贈していただく企画を実施しています。

1. ご寄贈いただく「思い出の品々」について
 - ・「思い出の品々」につきましては、その内容の指定や限定はございません。
 - ・ご提供頂く場合、「簡単な説明」等を添えていただければ幸いです。
2. 送り先
 - ・電子資料は、メールにて (peer@meikei.or.jp) までお送りください。
 - ・郵送先は、「茗溪会大塚事務所」宛にて願います。

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館内 (電話 03-3941-0136)



頼りになる なかま 街の同窓

茗溪倶楽部 やどかり MEIKEI crab

(1) MEIKEIは「茗溪」のローマ字
(2) crabは、「やどかり」の英訳

●前口上

東京高師に『七寮音頭』があるように、筑波大には『やどかり音頭』がある。

一よいやさ よいやさ やどかり音頭
夏になったら かびだらけ
冬になったら 吹きさらし
しゅんめえしゅんめえ やどかりは
今に見ておれ 天下取り

二よいやさ よいやさ やどかり音頭
雨が降ったら 長靴で
かんかん日が照りや 砂ぼこり
どっちみちどっちみち 泥だらけ
黒い顔して 登下校

この音頭は、中西昌武（筑大人間）の作詞で、5番まで続く。
一番の歌詞にある「しゅんめえ」とは、理不尽な困難や悲劇に見舞われたり、避けられない事態に直面した際に、粛々とその状況を受け入れながら発する慣用句（仕方がない）の意であるが、「今に見ておれ天下取り」が続く。筑波大生の痛快な「やどかり気質」が伝わってくる。

●やどかり気質

昭和55年、金丸尚志（筑大、人間3年）は、『やどかり』の説として、当時の筑大生の暮らしぶりや心情を紹介した。

「やどかりはヤドカリ科の甲殻類で、エビとカニの中間の形をし、巻貝の殻の中に住んでいます。こちらの「やどかり達」は、ヒト科の人類で、大人と

子供の中間の型をし、筑波の里は茗溪の流れを汲む新泉のほとり、学生宿舍の殻の中に住んでいます。第一期のやどかり達がこの地を踏んだのは昭和49年のこと。爾来やどかり達は、時には醒めた眼で己の殻に閉じこもり、またある時は酒に酔い殻のまわりを徘徊し、しかし常に己の持つ大きなハサミを活かす時の到来を待って力を蓄えておりました。（『茗溪』94号p14）

やどかりは、hermit crab(英)という。hermitは、隠遁者という意味で、「何か望みは？」と問いかけたアレキサンドロス大王に、「そこをどいてくれ」と応じた哲学者ディオゲネスを彷彿とさせる。彼は樽の中で暮らしていた。

また、初期キリスト教では、修道会が成立する前に、人里離れた暮らしを神に捧げた隠修士をいう。

金丸は、「己のちっぽけな殻を脱ぎ捨て、もつと大きな殻を目指してはさみをもたげる日もそう遠くありません」と『やどかり』の説を結んだが、学生寮という樽の中で、「そこをどいてくれ」という気概を持ち己の道を求めた筑大生を「hermit」といえなくもない。

第一期のやどかりが彼の地を踏んで半世紀を迎える。この間に、「己のちっぽけな殻を脱ぎ捨て」、世に出たやどかり達は、さぞかし、「大きな殻」を得たか、あるいは目指しつつあるにちがいない。

やどかりの多くは潮間帯から水深数

百メートルの深海底まで生息し、汽水域、波打ち際、岩礁、珊瑚礁、砂泥底等の環境に棲み分ける。亜熱帯から熱帯では、海岸付近の陸上で生活するものもいる。

我が同窓は、世界各地を生存域として、多種多様な海域（職域）に進出している。淡水魚でも熱帯魚でもない、逞しく眩いほどの「やどかり」である。一般に、やどかりは大なり小なり、殻に身体を合わせるのではなく、身体に殻を合わせるという、厄介な宿業をもつ。

斯くの如き宿業持ちの同窓（やどかり）は、「己の殻を「習性」とするか「個性」とするかはさておき、殻持ちなりの付き合い方もあるだろう。

そこで、相談である。かの付き合い方を「茗溪倶楽部やどかり」として表現できないだろうかと思考した。

●十脚目ヤドカリ科

我がやどかりは、「十脚目」にして、その「十脚」を都合に応じて活用する。外敵から身を護るために殻に蓋をする脚、捕食する脚、移動する脚など…

同様に、我が同窓（やどかり）にも、左記の如き「十脚」のアイテムを活用していただこうと思いがいだらう。

●十脚のトリセツ

左記に挙げた十脚については、これから順々に効用や取扱いの説明をさせていただきます、お試しの機会を設けようと思いますが、とりあえず、今回は第3脚の扱い方の説明をさせていただきます。ぜひ、お試しくください。



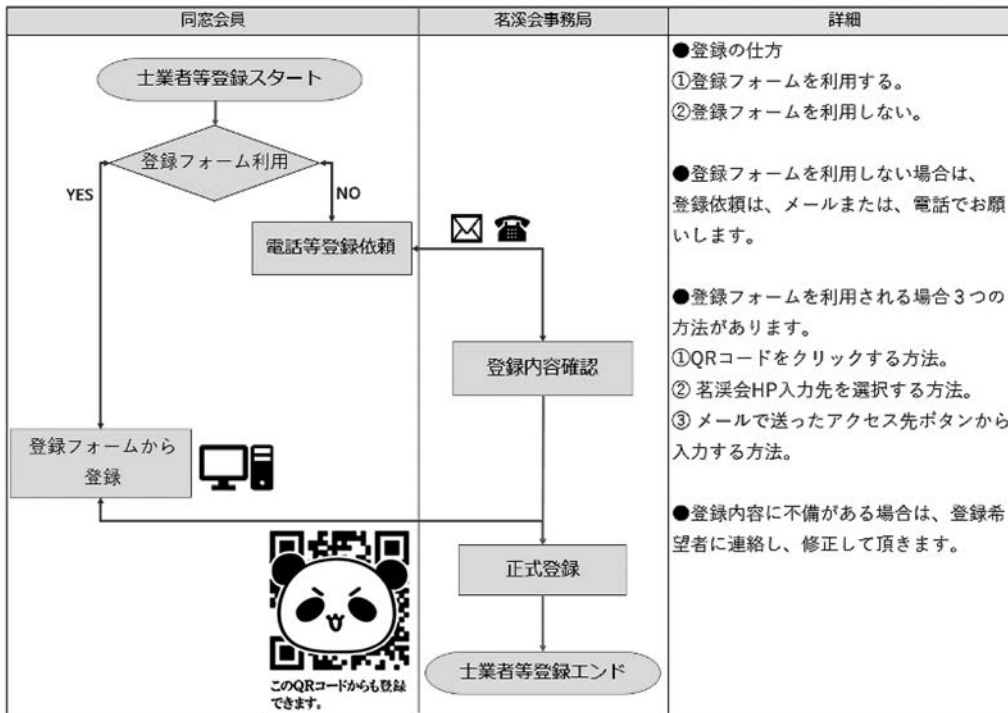
十脚目ヤドカリ科 各脚部の名称と役割

- | | | |
|-----|-------------------------------|---------------------------|
| 1脚 | M eikei Membership | 茗溪会について、入会の手続き |
| 2脚 | E ncourage | 学生や同窓の支援や寄付(呼びかけ) |
| 3脚 | I ntroduce | 同窓の士業者、お店や会社等の紹介 |
| 4脚 | K nowledge | 知の交流(公開講座等の講師紹介・出版広告等) |
| 5脚 | E mployment counseling | 就職相談・起業開発相談・求人窓口 |
| 6脚 | I ncentive | 同窓のお店等の割引やサービス等の紹介 |
| 7脚 | c omrade | 同窓照会、新たな同窓組織や会合の呼びかけ |
| 8脚 | r egion organization | 地域組織の紹介・事業や行事開催の案内 |
| 9脚 | a rchive | 記録照会(季刊誌「茗溪」、地域組織発行の機関誌等) |
| 10脚 | b ureau | 茗溪会事務局への問合せ、大学からの情報等 |

●第3脚から始めよう

同窓の士業者は意外と多い。一般に「八士業」や「十士業」に括る方々をぜひご紹介ください。もちろん、自薦・他薦は問いません。(但し、他薦の場合、ご本人にご了解を頂いて下さい)

データ登録の流れ



【記入事項】

- ① 該当士業
弁護士・弁理士・司法書士・行政書士・公認会計士・税理士・土地家屋調査士・不動産鑑定士・社会保険労務士・中小企業診断士・建築士・医師、その他
- ② 氏名(卒業年)
- ③ 事務所名
- ④ 住所(連絡先)
メールアドレス
- ⑤ HPアドレス登録先

- 士業者情報等を集計して、以下のように一覧にさせていただきます。
- 紙ベース(季刊誌「茗溪」への掲載)からスタートします。ある程度の量になりましたら、冊子化して会員の皆様のお手元に常備録として提供させて頂くことも検討したいと思います。
- ホームページ等からの閲覧も可能となるようにします(十分なセキュリティ対策も対応します)。

公開内容(セルに文字が収まっていませんが、イメージですのでご容赦下さい)

該当士業	氏名	ふりがな	卒業年	学部・学群	メールアドレス	事務所名	事務所郵便	事務所住所	事務所電話	事務所メ	HPアドレ
弁護士	花上 克宏	はながみ	1979	筑二人間	hanagami@	花上法律	270-1164	我孫子市	04-7182-58	hanagami	www.meike
弁護士	室岡 和彦	むろおか	1981	筑一人文	abc@meike	室岡法律	005-0842	札幌市南区	011-9300-2	abc@meik	www.sapp
弁護士	大根田 裕	おおねだ	1971	東北大理	def@meike	大根田法	030-0914	青森市阿	0172-9300-	def@meik	www.aomo
公認会計士	會田 芳光	あいた よ	1987	筑体	hijiki@meike	會田会計	020-0831	盛岡市三本	0191-1230-	hijiki@mei	www.iwate
公認会計士	瀧下 芳彦	たぎした	1983	筑一自	lmn@meike	瀧下会計	981-3132	宮城県仙台	022-1230-2	lmn@meik	www.miyag
公認会計士	前田 三郎	まえださぶ	1986	筑一人文	opqr@meike	前田会計	010-1413	秋田県秋田	0182-45-28	opqr@mei	www.ak
税理士	小山 恵子	こやま け	1985	筑一自	stugami@m	小山会計	991-0026	山形県寒河	0233-7800-	stugami@	
税理士	野崎 芳恵	のざき よ	1982	筑一人文	ywxagami@	野崎会計	960-0112	福島県福島	0241-3670-	ywxagami	
税理士	笠渡 真樹子	のわたり	1986	筑一人文	ygweagami	笠渡会計	319-3111	常陸大宮市	0293-9700-	ygweagami	
司法書士	宮本 靖子	みやもと	1975	教大独	okishmi@m	宮本法律	320-0056	栃本県宇都		okishmi@m	
司法書士											

ウェブアプリケーショ

を使ってみませんか

白川 友紀

ウェブサイト作成が容易に

十数年ほど前からITの専門家だけでなく自分でECショップなどのウェブサイトを作成、公開することができるウェブアプリケーションサイトがたくさんできています。本稿では、そのようなサイトを利用して、自分でウェブサイトを作成、公開、利用することについて紹介いたします。

多数のコンピュータによって得られる高機能をインターネット等を通じて提供するクラウドサービスには、サービスの種類によって大まかに、IaaS (Infrastructure as a Service) / Paas (Platform as a Service) / SaaS (Software as a Service) があります。IaaSはコンピュータの処理装置、記憶装置などの機能が利用できるサービスで、ユーザは従来前線で使っていたコンピュータの代わりとして利用します。PaasはOSやミドルウェアの機能が利用できるサービスで、ユーザはさらにアプリケーションを実装したり開発したりして利用します。IaaSとPaasも自社でシステムを持つことに比べて必要な時に必要なだけ利用できるというメリットがあります。Amazon Web Services (AWS) / Microsoft Azure

Google Cloud Platform (GCP) などがIaaS / Paasの代表的なサービスです。IaaSやPaasを利用するにはアプリケーションの開発のための技術や費用が必要で、SaaSはアプリケーションレベルの機能が利用できるサービスで、ユーザはウェブアプリケーションサイトに少し調整を加えるだけで自分のウェブサイトを作って公開することができます。SaaSの利用にはITの専門的な知識や技術はほとんど要りません。現在、商業的なSaaSやウェブアプリケーションサイトが多数生まれ、きていて、旧来のウェブサイト作成(補助)サービスのサイトに置き換わりつつあります。IaaS / Paasでは前述の3社が優位になっていますが、SaaSの分野では新たな機能を提供するサービスやユーザがより簡単にサイトを作れる機能を提供するサービスが次々と生まれて競争状態になっています。そのため、中には(機能制限などがありますが)無料で高機能なウェブサイトが作成できるアプリケーションサイトもあり、また、ユーザは無料でウェブサイトをすることもできます。

Google Cloud Platform (GCP) などがIaaS / Paasの代表的なサービスです。IaaSやPaasを利用するにはアプリケーションの開発のための技術や費用が必要で、SaaSはアプリケーションレベルの機能が利用できるサービスで、ユーザはウェブアプリケーションサイトに少し調整を加えるだけで自分のウェブサイトを作って公開することができます。SaaSの利用にはITの専門的な知識や技術はほとんど要りません。現在、商業的なSaaSやウェブアプリケーションサイトが多数生まれ、きていて、旧来のウェブサイト作成(補助)サービスのサイトに置き換わりつつあります。IaaS / Paasでは前述の3社が優位になっていますが、SaaSの分野では新たな機能を提供するサービスやユーザがより簡単にサイトを作れる機能を提供するサービスが次々と生まれて競争状態になっています。そのため、中には(機能制限などがありますが)無料で高機能なウェブサイトが作成できるアプリケーションサイトもあり、また、ユーザは無料でウェブサイトをすることもできます。

最近の第13回「つくば談話会」や第11回以前の数回の「つくば談話会」では、フォーム作成ウェブサイトのフォームズ (<https://www.formz.com>) を利用して出欠アンケートと参加申し込みの受付を行いました。メールで回答をいただく場合より効率よく連絡をとることができました。フォームズはフォーム作成だけのアプリケーションですので、専門家でなくとも比較的簡単にウェブアプリケーションサイト作成を試すことができると思います。

第12回つくば談話会では予約サイトを作成できるウェブアプリケーションサイトRESERVAを利用して広報と参加申し込み受付を行いました (<https://reserva.be/tsukubadanwakai> 現在は終了しています)。フォームズのような単純な回答フォームではなく多少とも見映えの良い「つくば談話会」のウェブサイトが作成できました。しかし、参加申し込みをしようとする方にとっては、申し込みのための手数がひと手間増えてしまいました。参加者が複数のイベントの中から希望するイベントを選択して参加予約申し込みを行うような場合には予約サイトを利用するのが良いと思います。しかし現在の「つく

たり会議室のように見せたりすることができます。名誉教授の会のバーチャルオフィスを作ってみました (<https://eprofs.vice.in/>)。しかし今のところ利用されておらず、残念ながらうまい利用法も見つかっておりません。

クラウド型のグループウェアGridy (<https://www.bluetec.co.jp/knowledge/suite/free/>)を使うと、部署／グループごとの掲示板や共有ファイル、スケジュール、プロジェクト管理、備品管理、設備予約、ワークフロー（稟議）、議事録などの機能が利用できるようになり、メールやメーリングリスト中心のコミュニケーションから高度なコミュニケーションへの変革が図れます。いろいろな機能が用意されているので上手く使うことができれば大きな生産性向上が期待できると思います。

大手クラウドの利用例としてはGIGAスクールがあります。GIGAスクールの推進で初等中等教育でも教員や児童生徒のクラウド利活用が進んでいます。Microsoft 365 Education、GIGAスクールパッケージを利用しているケースが多いようですが、奈良県ではGoogle for EducationやChrome Bookを全ての国公立小中高特別支援学校で採用しているようです。大阪府堺市で生徒の出欠連絡をMicrosoft Teams for Education と Microsoft Formsを連携させて受けることで大幅な業務改善が行われたという例が報告されています。また、この例では、業務改善に成功したことによって、さらなる利活用への意欲が喚起されているようです。

<https://customers.microsoft.com/cz/story/142988672740196132-sakai-k12-edu-microsoft-teams-jp-japan>

このシステムはPaaSに多くの単独でも部品としても使えるアプリケーションが用意された形になっていますので、複数のアプリケーションを組み合わせて高度な機能を実現することができます。単独のSaaS利用よりも開発が複雑になりますが、プログラミングは不要でITスキルもあまり必要ではありません。必要なのはアイデアや工夫する力です。

GIGAスクールの推進に伴って、ますます全国で児童生徒や教員のクラウド利活用体験が増え、スキルも大きく向上すると期待しています。

DXが進まない日本

IPA（独立行政法人情報処理推進機構）から「DX白書2023」が公開されています。
<https://www.ipa.go.jp/publish/wp-dx-dx-2023.html>

これによると、DX（デジタルによる企業の変革）は規模の小さい企業や地方での取り組み割合が低くなっています。特に企業での大掛かりなDXへの取り組みには、IT資源や人材ならびに経費が必要と考えられることからこのような傾向になっていると思われます。

しかし、SaaS、ウェブアプリケーションサイトを利用すれば専門的なスキルが無くてもDXを進めることができます。個人事業主や少人数の企業であっても、無料のSaaSなどを利用してあまり費用をかけずにDXを試

してみることができるのではないのでしょうか。

また、企業以外の個人や少人数の任意団体などでも、専門家ではなくユーザ（市民）がSaaSを利用してウェブサイトの開発者となり、それぞれの「なぜ？どうして？」を解決するアプリケーションや「できたらいいな。あったらいいな。」を実現するアプリケーションを作成してつながるのではないかと期待します。

ただし、作成しようとするウェブサイトにについて細かいところまで思い通りにしようとしても本来作り付けのサービスであるSaaSでは実現できない虞があります。一方、IaaS、PaaSを利用すると専門的スキルが必要になったり費用がかかったりします。費用をかける、難しくしないためにもSaaSを使うことが必要になります。そしてSaaSを利用する際は、ユーザが望む機能でできるだけ簡単に実現するためにはどのサービスを使うのが大事になります。SaaSに作り付けの機能がそのまま利用できれば簡単にウェブサイトが作れます。SaaSの機能を工夫調整して望む機能を持つウェブサイトを作るよりも「どれを利用するか」を考えることが重要だと思えます。同時に、ユーザが望む機能の方をSaaSが提供する機能に合わせることも考えることが重要だと思えます。よくあるケースとして従来の紙やメールで行っていた業務をそのままクラウドで実現しようとする場合があります。しかしそれでは本質的な業務の変革にはなりません。

一方で、SaaS提供者の想定通りの使い方ではない使い方も工夫すると良いと思います。多くの人が利用していただくことにより、誰かがSaaS提供者が思いもよらなかったようなアイデアを思い付き、世の中に役立つ新しい価値を提供するアプリケーションサイトが生まれたら素晴らしいと思っております。

前節で例にあげたようなサービスをj利用するにはメールアドレスが必要ですが、Gmailなどのフリーメールでもよいところが多いです。そのため個人でも試しに作成してみることができます。

まずは単機能のウェブアプリケーション、例えばフォームズのようなウェブ上で提供する入力フォーム開発から始めていくのがよいと思います。フォームズでは利用者からの回答、例えば「出席」か「欠席」かに対してそれぞれに応じた内容で返信することもできます。そのような機能を使ってみてスキルをあげて、その後にもう少し複雑なSaaSを利用するようにするとあまり難しく感じずに進められて良いと思います。

多くの人に身近な「困った」の解決にSaaSの利用を検討していただき、新たな価値創造に結びつくアイデアが生まれ、そのアイデアを実現するための一助として本稿が役に立てば幸いです。なお、ウェブアプリケーションを利用するにあたっては、セキュリティへの配慮が重要です。利用しようとするSaaS事業者のセキュリティへの取り組み確認も必要です。

ユーザもアカウント毎に異なる強固なパスワードを設定してください。
(筑波大学 名誉教授)

元素講話ごぼれ話

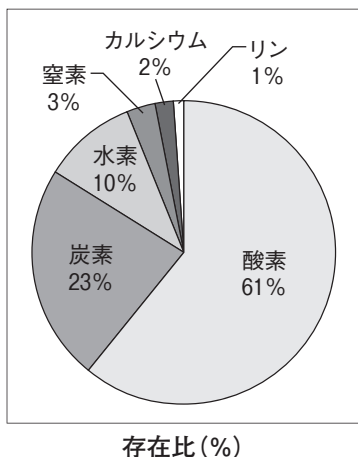
第一話：人体と元素

大嶋建一

前回の記事「元素講話」(季刊誌「茗溪」2023年春号、No.1116、pp.18-19)では「美しい元素―あらゆる物質の基本要素がわかる」(発行所：株式会社Gakken)に記載されている「元素の基本」を中心に紹介した。今回から本誌の新たな小欄「元素講話ごぼれ話」にて、元素が日常生活に密着に結び付いた話題を提供する。

第一話：人体と元素

古代の哲学には、人間の体は宇宙の縮図であるという考え方があり、宇宙というマクロコスモスに対して、人体はミクロコスモスがあった。実際、我々の体内には地球上に存在する多くの元素が含まれている。はじめに人体の必須元素どのくらいの元素があるのかをIAEA(国際原子力機関)のデータから引用した表を以下に示す。



	元素名(体重70kgの成人での体内存在量)	
必須常量元素 (11種類)	酸素(43kg), 炭素(16kg), 水素(7kg), 矽素(1.8kg), カルシウム(1kg), リン(780g), 硫黄(140g), カリウム(140g), ナトリウム(100g), 塩素(95g), マグネシウム(19g)	存在比の合計 ~99.8% (円グラフ参照)
微量元素 (9種類)	ケイ素(18g), 鉄(4.2g), フッ素(2.6g), 亜鉛(2.3g), ルビジウム(0.32g), ストロニウム(0.32g), 臭素(0.20g), 鉛(0.20g), 銅(0.07g)	各成分の割合 0.01%以下
超微量元素 (18種類以上)	アルミニウム、カドミウム、ホウ素、バリウム、スズ、マンガン、ヨウ素、ニッケル、金、モリブデン、クロム、セシウム、ウラン、ベリリウム、ラジウム、セレン、モリブデン、コバルト、他	各成分の割合 0.0001%以下

この表からわかるように、11種類の必須常量元素が約99.8%を占め、その重量存在比を円グラフで示した。しかし、これだけでは人体の生命と健康を維持できず、残りの0.2%の微量元素及び超微量元素は生命機能の維持に重要な役割を果たしている。11種の必須常量元素と9種の微量元素の内、水素、炭素、矽素、酸素を除く16種類の元素は栄養学では5大栄養素のひとつのミネラル(無機物)と呼ばれ、それぞれの元素の特性を生かして医薬品、サプリメント、飲料に含まれている。さらに、上記表の微量元素及び超微量元素にアンダーラインを示した9種の元素は生命の維持や生体の発育、正常な生理機能にとって不可欠である。例えば、鉄が不足すると貧血になる。さらに、注目すべきことは鉛、セレン、ベリリウム等の有害物質を含んでいることである。体内では一定の量を超えること、生体は余分な元素として排出するが、その処理が遅れば毒性を示すことになる。従って、人体の健康維持にはバランスの良い適量が重要になる。以下では、商品として販売されている2つの製品、赤ちゃん用粉ミルクと麦茶の栄養成分表示から含有元素を選ぶ。

1. 和光堂レーベンスミルク「はいはい」(0か月から1歳の誕生日まで)では「赤ちゃんのママのことを考えて母乳に近いけました」と表示されている。ここで、100gあたりの栄養成分について表示されている中から、5種類のミネラル

2. 伊藤園から「健康ミネラル麦茶」という飲料では笑福亭鶴瓶が「移動中には水分とミネラルの補給!」と宣伝している。また、この商品でのミネラルとはリン、マンガン、ナトリウムのことであると説明している。ここで、100ml当たりの3種類のミネラルはリン1.3mg、マンガン0.01mg、食塩相当量0.03gと表示されている。

この飲料には3種類の元素の他に、亜鉛0.01mg、マグネシウム0.5mg、カリウム12mgが含まれている。

(補足：「栄養成分表示ハンドブック」(食品表示基準に基づく栄養成分表示の方法等)は東京都のホームページから入手出来る。)

ミネラル		生命維持・生体の発育・正常な生理機能に不可欠な元素	
元素名	重量	元素名	重量
カリウム	480mg	鉄	6.0mg
マグネシウム	40mg	亜鉛	3.0mg
カルシウム	380mg	銅	0.32mg
リン	210mg	ヨウ素	60μg
ナトリウム	140mg	セレン	7μg

ミネラルと生命維持・生体の発育・正常な生理機能に不可欠な5種類の元素を示す。

明るく楽しい茗溪会

第12回定時総会報告

令和5(2023)年5月18日(木)

茗溪会館2階「茗溪の間」

第12回定時総会報告(要旨)

茗溪会の第12回定時総会は、5月18日(木)に、茗溪会館「茗溪の間」で開催された。当日は30度を超える猛暑であったが、代議員出席者40名(委任状51名)、と多数の役員が出席して、総会が始まった。

総会に先立ち、昨年11月に逝去された西野虎之介元理事長をはじめ、「追悼のつどい」以降に亡くなられた159名の会員に対し、参加者一同が黙祷を捧げた。

また、故植草完代議員に代わり馬場茂氏を代議員とする旨が報告された。



②

理事長の挨拶(P4)に続いて、来賓挨拶として、筑波大学長の挨拶文を阿江通良副理事長が代読した(P5)。



③

① 総会の準備風景 ② 黙祷
③ 挨拶する井口武雄理事長
「明るく楽しい茗溪会」を掲げた。

議長就任と議事録署名人を選任した後に議事となった。審議事項は、以下の3議案が提出され、全て可決された。

第1号議案 令和4年度事業報告、決算及び監査報告

第2号議案 令和5年度事業計画(案)及び予算(案)

第3号議案 役員 の 辞任 について

第1号議案の事業報告については、矢野常務理事から、コロナ禍で会員の減少や委員会活動の中止等が続いたこと、事業ではオンラインを活用した教職研修講座やキャリアカフェなどは活発に活動できたこと等の説明があった。

第2号議案については、会費会計と資産会計に分け、会費会計は会費、寄付、広告収入等を財源として共益活動や学生支援等に充てる。資産会計は地代、賃貸、資産運用等を財源とし、積立預金引当に充てると、會田局長代理から説明された。



説明する
矢野常務理事と
會田局長代理

第3号議案は、役員 の 辞任 について、阿江役員選定委員長から説明があった。

川田孝一理事は体調不良のため退任を希望したこと、西村宗一郎理事は理事辞任の後に、茗溪会大塚事務所長として、6月1日付けで着任した。

(文責 早川源一(S51教大東史))

対面とZOOMハイブリッドで開催

第11回 東京茗溪会総会・講演会・懇親会のご案内

来る11月25日(土)、11回目を迎える東京茗溪会の総会・講演会・懇親会を開催いたします。新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、今回も茗溪会館での対面とZOOMでのオンラインを併用して開催します。

全国各地からでもご参加いただけます。どうぞふるってご参集ください。詳細は後日季刊誌「茗溪」秋号及びWEBでお知らせいたします。

— 記 —

11月25日(土) 13時30分

■来賓予定/永田恭介学長 他

■講演者/辻村真貴様

(筑波大学 大学執行役員

(海外教育拠点担当)

・生命環境系教授)

■演題予定/「水循環の視点からみた多様性と人材育成」

■司会/小林千洋様

(現在、公益財団・せたがや文化財団・世田谷パブリックシアター劇場部長)

(茗溪会理事)

筑波大学は 2023 年 10 月に創基 151 年開学 50 周年を迎えます



創基 151 年
筑波大学 50 周年記念
50TH ANNIVERSARY OF
UNIVERSITY OF TSUKUBA

9月30日(土)
記念式典
10月1日(日)
記念イベント



これまで“IMAGINE THE FUTURE.”を合言葉に、未来を想い続けてきた私たちは、大きな節目を迎える今、未来へ向かってさらに一步踏み出します。

次の50年に向けて、私たちは国際社会、地域社会、卒業生、学生、様々な方との結びつきを強く意識し、これまで想い続けた未来を皆さんとともに形に表していきます。

歴史への敬意と未来への期待を胸に、“DESIGN THE FUTURE, TOGETHER. 一ともに拓く未来—”をスローガンに掲げ、記念事業を展開していきます。

創基 151 年 筑波大学 50 周年記念基金 **ご寄附のお願い**

筑波大学基金ウェブサイトよりお申し込みください
<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp>

スマホはこちらからお申し込みフォームへ



50周年
クラウドファンディング
スタート!(2023.8月~)

お振込みのご寄附は下記にご連絡ください。専用払込取扱票をお送りいたしますので、必要事項をご記入の上、お近くの金融機関窓口にお出ください。

お問い合わせ

国立大学法人筑波大学 事業開発推進室

Tel : 029-853-5845

Mail : 50kikin@un.tsukuba.ac.jp

創基151年筑波大学開学50周年記念事業

創基百五十一年筑波大学五十年史 史料編(下巻)

筑波大学50年史編纂委員会 編
2023年3月刊行

筑波大学の創設準備から今日に至る基本史料を14章にわけて網羅的・悉皆的に収集して翻刻し、時間軸に沿って配列した、筑波大学の五十年を振り返る際の貴重な資料集。創基151年筑波大学開学50周年記念事業の一つとして編纂された年史の第1冊で、今後3冊を刊行予定。



B5 判上製本、1494 ページ、CD-ROM付 頒布価格 10,000 円(税込) ※国内郵送料含む

発行：筑波大学(50年史編纂室) つくば市天王台1-1-1

申込先：筑波大学アーカイブズ 〒305-8577 つくば市天王台1-1-1
TEL : 029-853-4127 E-mail : univ-archives@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学は今

ウクライナ大使が永田学長を訪問 及び講演会等を実施

4月24日、Sergiy Korsunsky駐日ウクライナ特命全権大使一行が来訪し、永田学長等と懇談されました。懇談では、ウクライナから学修の継続を希望し本学に入学した学生の生活や修学状況、今後のウクライナ復興に貢献し両国の架け橋となるべく人材育成に向けた方策等について意見交換するとともに、同大使から、本学の取組への感謝の言葉が述べられました。



同大使は、全学構成員を対象とした講演会にて、「ウクライナの歴史、文化と現状」と題して講演され、教職員、学生約100名が聴講し、同大使は、ウクライナにおける壊滅的な戦争状況と、祖国の国民、文化、そして未来に及ぼす影響について語られました。

筑波大学科学技術週間 キッズ・ユニバーシティを開催

4月22、23日、4年ぶりに科学技術週間のイベント「筑波大学キッズ・ユニバーシティ」を実施しました。「科学の面白さや大学の魅力を体験してもらうこと」を目的とした、特別授業、体験ツアー、理科実験教室、生き物観察等盛りだくさんのイベントです。好天に恵まれ、数多くの子どもたちや保護者が訪れました。



大明神寮の柿渋塗りを実施

4月27日、菅平高原実験所にて登録有形文化財「大明神寮」の柿渋塗りが行われました。

大明神寮は、昭和40年（1965年）10月、当実験所の前身である東京教育大学理学部附属菅平高原生物実験所に宿舎として建てられ、長年のあいだ野

外教育・研究を培ってきた建造物です。宿舎としての合理的な間取り、背後の根子岳・四阿山と一体となった美しい景観、地域の歴史を伝える重要な建物という点から、平成30年3月27日に登録有形文化財として登録されました。当実験所では大明神寮の維持および保存を目的として、毎年1回、防虫効果や防腐効果があることで知られる柿渋を建物外壁に塗布しています。

地域の宝である大明神寮を大切に維持し、菅平高原の歴史を示す建築遺構として今後有効活用を図ることにしています。その一環として今年の秋、当実験所が所蔵する標本をテーマにした企画展を大明神寮で実施する予定です。



第47回筑波大学 春季スポーツ・デーを開催

5月13、14日、第47回春季スポーツ・



デーを開催しました。筑波大学のスポーツ・デーは、開学して間もない昭和52年に第1回目を開催して以来、春季と秋季の年2回、各2日間開催し、年間延べ1万人以上の学生・教職員が共にスポーツを楽しむことのできる、筑波大学ならではの伝統ある大学行事です。今季から、コロナ禍以前のように観客の入場が可能となり、昨年春季と比べて参加者数も増加しました。初日はあいにくの雨模様でしたが、二日目は天気も回復し、キックベースボール等の各種目において熱戦が繰り広げられました。全ての参加者の協力と、スポーツ・デー学生委員会の円滑な運営により、無事に全日程を終了することが出来ました。

茗溪学園だより

ミルトンアカデミー校と連携協定締結

米国マサチューセッツ州の私立学校ミルトンアカデミーと、3月30日に同校を訪問し提携協定を結びました。

同校は1798年創立の寮制学校・独立学校で、幼稚園から高校まであるミッション系の伝統のある名門校です。ノーベル賞学者、有名な政治家や著名人も多く輩出し、ハーバード大学をはじめとする米国伝統大学に多数の生徒が進学しています。学業だけでなくスポーツ強豪校（特にホッケー）でもあります。

米国をはじめ世界の重要な職業に就く卒業生の多様性理解教育のために、同校は海外交流校を探していました。そして日本を大切な国と考え、北海道の学校に次ぐ2校目の学校を探しているときに茗溪学園を知り、先方から提携協定を希望してきました。本校はアジア、オセアニアや英国とは多くの交流提携校契約を結んでいます。本校はア



本校からは田代学園長が訪米し調印式に臨みました。

の学校とは初めてであり、またミルトンアカデミーのような優秀な伝統校と提携できることは大変名譽なことだと考えています。今後は両校生徒の派遣計画について具体化させていきます。

日本感性工学会に論文発表

IB課程在籍の高校3年生が、IB DPのCASプログラムの一環として行った研究活動が、筆頭著者として査読を受けた論文として日本感性工学会の論文誌に掲載されました。

研究タイトルは、「スクラッチを用いた認知機能評価システムの開発—トレイルメイキングテストのデジタル化と拡張によって—」です。この論文は、現在「Jrリサーチ—養成講座」をご担当いただいている、産業総合技術研究所の研究者の先生のご指導を受けてまとめられたものであり、先生との共著となっています。

高齢者の脳の健康維持に高校生でも貢献できる可能性を示したいと評価システムを試作し、実証実験を行ったものです。認知症早期発見のためのゲームとして、校内の多くの先生方が被験者として協力したということも謝辞に記されていました。



IB課程ESS（「環境システムと社会」英語科目）の授業のようす。グループ毎に教科書を分担して生徒同士が知識を構築しあう授業スタイルで、教師は必要に応じて補足説明を加えたり、議論を深めるための質問をしたりする。

スコラ・ガーデン完成

スコラ棟西側に約千㎡の広場が完成しました。学校創立時には苗木だったクスギの木が10m以上の大木になって涼やかな木陰となっており、その周りをウッドデッキで囲み、さらにその周りに人工芝を敷き詰めました。名前を「スコラ・ガーデン」としました。

工事が完了して直ぐに生徒達に開放すると、人工芝に寝転がったり、木陰のウッドデッキに腰を下ろして談笑する姿が見られました。

これから、ベンチやテーブルなどを配置して、憩いの広場として幅広く利用できるように整備していく計画です。



写真左側の建物がスコラ棟、木の陰にアゴラ棟、その後方に高校校舎が見える

JRC同好会、「ボランティア・スピリット・アワード」全国賞受賞

「第26回ボランティア・スピリット」

「アワード」に応募したJRC同好会の活動が、中学部門で全国賞を受賞しました（高校部門でも、コミュニケーション賞を受賞）。活動内容を応募した活動報告書から紹介します。

私たちは、校内にある畑を使って地域や世界と「繋がる」活動を行っている。学校の食堂から出た野菜くずを堆肥化し、その堆肥を使って農作物や花を育てている。これまでに、畑で育てた野菜をウクライナからの避難民の方々に地域の子ども食堂に寄付した。また、海外の学校と学校菜園を通じた交流をしたり、国際的な会議に参加したりした。私たちは「Think Globally, Act Locally」を常に心がけて活動している。今後は畑活動を持続可能なものとし、地域社会との繋がりを強化しながら、国際交流や研究者との学問的交流の機会にも積極的に参加していきたい。



校長室にて賞状授与

部活動報告（試合結果など）

◎高校ラグビー部：第10回全国7人制大会県予選優勝・全国大会出場10年連続10回目（7月16-18日長野県菅平高原）、3月全国選抜大会結果・2回戦引き分け抽選負け

◎中学ラグビー部：第74回関東大会2年連続17回目優勝・第14回全国中学大会出場2年連続11回目出場（9月16-18日水戸市）

【高校関東大会出場部活動】：ラグビー部、剣道部、バドミントン部、テニス部、体操部、軟式野球部

【インターハイ県予選結果及びインターハイ出場部活/種別】：

◎バドミントン部：男女団体優勝（2年連続で男女優勝）・男単優勝、男複優勝、女単準優勝

◎テニス部：男団体優勝、男単準優勝、男複優勝、◎体操部：女団体優勝（16年ぶり）、女子個人優勝、男個人優勝と3位、男団体準優勝、女子個人上位独占

◎高校剣道部：男団体準優勝、男個人準優勝（インターハイ開催地は北海道8月）

追悼録（敬称略）

逝去会員氏名・卒年科・地域・
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

宮前 好男	19理一	東京	H27. 9.18	長男	宮前 博	加藤 明美	33教大健	京都	R5. 2. 6	妻	加藤 治代
増田 信	22大倫	東京	R5. 1.22	長男	増田 信行	本田 保喜	33教大化	広島	R5. 4.18	妻	本田 昭子
青木 俊	22臨物象	熊本	R5. 4.21	妻	青木 房子	平野 正一	33教大彫	埼玉	R4.10.16	妻	平野 光子
名取守之祐	23臨物象	千葉	R5. 3. 9	妻	名取 史織	大木 正彦	34教大体	大分	R4.11.27	妻	大木かつゑ
太田 義也	24文二	神奈川	R4.12. 8	長女	小林 祐子	杉浦 章郎	34教大体	東京	R5. 4. 6	妻	杉浦 恵子
岡野 定郎	24文四	埼玉	R5. 1.15	長男	岡野 卓	高岡 享	34教大体	東京	R5. 5.15	妻	高岡 洋子
黒羽 亮一	24理二	東京	R5. 3.28	妻	黒羽 房子	田中 重美	34教大経	東京	R4.11.13	子	田中 健大
牧尾 良典	25体	埼玉	R5. 4. 1	長女	小川 恵子	降旗 勝信	34院修教	東京	R5. 4. 2	長男	降旗 信一
中島 義行	25文三	東京	R5. 4. 5	妻	中島 瑞子	高橋 修治	35教大体	京都	R5. 2.16	長女	上村 景子
山岸 疆	26文三	長野	R5. 1. 4	妻	山岸 澄子	土田 昭	35教大体	静岡	R4.10.18	妻	土田 恵子
関山 操	27大数	神奈川	R5. 3. 8	長男	関山 秀雄	小島 敏昌	36院修化	埼玉	R4. 4.16	長男	小島 貫介
近藤 正義	27理二	東京	R5. 3.20	長男	近藤 健	陳 謙臣	37教大地鋳	兵庫	R5. 1.27	妻	張 公乃
中蘭 崇	28教大日史	神奈川	R5. 3.11	妻	中蘭 雍子	島 脩子	37教大特教	神奈川	R5. 2.15	長男	島 昭夫
塩浦徳三郎	29教大國	群馬	R5. 2.13	妻	塩浦 節子	鈴木 邦夫	38教大健	宮城	R4. 3.29	長男	鈴木 卓
小林 正治	30教大國	栃木	R4. 9.21	長男	小林 一貴	曾川 定雄	39教大日史	千葉	R5. 4. 1	妻	曾川 美苗
下田幸次郎	30教大物	神奈川	R4. 3.10	妻	下田 妙子	石樽 詔之	40教大体	岐阜	R4. 7.17	妻	石樽三重子
堀内 康宏	32教大英	千葉	R4. 2.22	妻	堀内イヨ子	氏森 英亜	41院修教心	東京	R5. 1.16	長男	氏森 瑛
小野 六郎	32教大特教	茨城	R4.11. 3	妻	小野 陽子	山根 國男	43院博植	茨城	R5. 3. 4	妻	山根 尚子
小杉 武文	32教大農	奈良	R5. 4.16	妻	小杉 節子	田中 秀一	50院修健	福井	R5. 1. 3	妻	田中 和代
岡本 茂	32院修数	千葉	R5. 2.10	長男	岡本 浩史	松村 憲樹	53筑一社会	鳥根	R5. 4. 4	妻	松村 千里

第18回 朝永振一郎記念
「科学の芽」賞募集

2024
8/21 - 9/16

151 03-3942-6806

詳細・問い合わせ・応募先
筑波大学東京キャンパス事務部学校支援課

詳しくはこちら



*「科学の芽」賞を受賞した作品は『もっと知りたい！「科学の芽」の世界PART9』（2024年6月刊行予定）に掲載されます。

【審査結果発表】 令和5年11月下旬

【応募期間】 令和5年8月21日～9月16日

【募集対象】 小学3年生～高校3年生

として育て、レポート10枚以内にまとめる。

【応募内容】 自然現象に接する中で「あれっ」「なぜ」と思ふこと（＝科学の芽）を実験や観察をと

育てる。

後続の若い世代に伝えていくとともに、小・中・高

校生を対象に自然や科学への関心と研究する姿勢を

育てる。

「趣旨」 朝永振一郎博士の功績をたたえ、それを

「趣旨」 朝永振一郎博士の功績をたたえ、それを



◆第13回大塚人文地理学OB会

と き 令和5年6月4日(日)

ところ アルカディア市ヶ谷 (私学会館)

東京文理科大学・東京教育大学・筑波大学で人文地理学を学び、大学その他で研究と教育に携わってきた60歳以上の東京および関東在住者を中心とした交流会で、17名が参加しました。それぞれが、現在の取り組みについて熱っぽく語り、楽しい会になりました。

(写真：内山幸久 記：山下清海・村山祐司)

桐の葉のつどい

同期入学、または同好のみなさんの集まりを紹介したものです。

令和5年春の叙勲
おめでとようございませす (敬称略)

瑞宝中綬章

犬井 善壽 41教大國 48院博日文 (東京)

菅野 峰明 42教大地 44院修地 (埼玉)

藤巻 公裕 43院修体 (埼玉)

原 慶明 43教大植 48院博植 (山形)

瑞宝小綬章

森島 堅二 49教大武 (栃木)

若山 宏 50教大応数 (新潟)

望月 正大 51教大数 (神奈川)

令和4年8月高齢者叙勲

おめでとようございませす (敬称略)

瑞宝小綬章

小島 貞明 32教大農経 (秋田)

清水 保善 32教大農経 (神奈川)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

表紙の言葉

(広報委員 鈴木一弘)

筑波大学の北西約12kmにある小貝川ふれあい公園(下妻市)では、5月になると約200万本のポピーが咲き乱れ花のじゅうたんが出現します。ポピーの花畑越しの筑波山の風景は、ひたち海浜公園のネモフィラとともに茨城の春を代表する風景として全国に知られるようになりました。特に朝日が筑波山頂から顔を出す5月下旬の未明には、ダイヤモンド筑波に照らされるポピーを求めて各地から多くのカメラマンが訪れます。

編集後記

「巻頭」グラビア「桐の花咲く頃」について

6月に開催された地域組織の総会に手分けして役員等が参加させていただきまました。「3年ぶり、4年ぶり」の開催という地域がほとんどでした。

本号では、役員が参加させていただいた懇親会などの風景を撮ったものを掲載させていただきました。

次号(秋号)にも、「明るく楽しい」茗溪会の元氣をお届けしようと思ひます。

(事務局Y)

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお願ひいたします。

令和5年7月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

— 筑波大学の知の発信 —
筑波大学出版会

日常のかたち

— 美学・建築・文学・食 —
対馬美千子
山口恵里子
編集



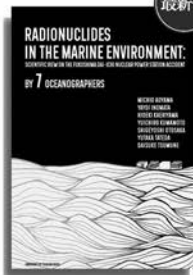
日々の生活の中、わたしたちは歩き、詩作し、住まい、音を奏で、食べ、死者とも交流する……様々な日常の姿を美学・建築・文学・食を通して見つめ直す。

A5判並製 416頁 紙版
ISBN 978-4-904074-75-6 C1070

定価 7,150円

Radionuclides in the Marine Environment
: Scientific View on the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Station Accident
by 7 oceanographers

青山道夫他 著



福島第一原発事故由来の放射性物質の海洋影響について、本研究の最前線で活躍している7名の海洋学者による全編英文の研究書

B5判並製 370頁 紙版・電子版
ISBN 978-4-904074-76-3 (紙版) C3044 定価 25,300円

刊行予定

東アジア冷戦文化の系譜学

— 一九四五年を境として

越智 博美
齋藤 一
橋本 恭子
吉原 ゆかり
渡辺 直紀
編

(令和6年4月刊行予定)

販売・丸善出版

株式会社 阿部兄弟建築事務所
平成28年度東京ワークライフバランス認定企業
<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032
東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル
代表取締役 荒井 豊人(昭和57筑基工)
TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

株式会社 十和観光
JUWA
代表取締役社長 井坂 信洋

URL <http://www.juwa.com> E-mail travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」
TSUKUBA WAY プロジェクト
～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～
<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ
代表取締役 藤田 文武(体育専門学郡) 2004年卒

広告募集

印刷・製本までトータルに対応
株式会社 ケイエスアイ
本社 〒557-0063 大阪市西成区南津守7-15-16
TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

株式会社 長谷工 コーポレーション
HASEKO
〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)4501
取締役副社長執行役員 樋岡 祥之(昭57筑社工)

集めるのは「知識」と「技術」
さまざまなモノや思想を“寄せ集め”
教育の世界が求めるウオントツを形にする会社
PiCK & MiX
Keeping Up Innovation with Integrating Art & Technology
株式会社ピックアンドミックス 代表取締役 松村直樹
<https://www.pickandmix.co.jp/>

FXC
Future X Communications
FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>
当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。
創業者：代表取締役社長執行役員 谷輪 重之(93筑修経営)

筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション！
新・教職課程演習
全22巻
筑波大学人間系教授 清水美恵 監修
広島大学大学院教授 小山正孝

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位(大学院)プログラムと、広島大学大学院人間社会科学研究所(旧大学院教育学研究科)の専任教員が編者として初めて協力する画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5判・並製
定価：1,650円～2,640円(税込)



協同出版 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5
TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp> 「新・教職課程演習」全22巻

日本一の業務用酒販会社で 一緒に楽しく働きませんか？

※業務用…居酒屋、B A R、レストランなど料飲店のお客様

カクヤスは、酒類・食品等の料飲店及び一般家庭向け販売、
「なんでも酒やカクヤス」を主力とする店舗運営を行っております。
全国各地から多数入社しており、若手からベテランまで活気のある会社です！



圧倒的な
配達拠点数



年中無休
365日配達



365日24時間
受注体制



急なご注文も
即日配達



社員の家族も招待して乾杯する【全社懇親会】や
割安で商品を購入できる【社内販売割引制度】、
年齢や部署を超えて交流できる【部活動・サークル活動】など、魅力的な制度をたくさんご用意しております。

国内業務用酒販売上NO.1!

(2016年調査会社調べ)

顧客満足度NO.1!

(首都圏飲食店2017年5月調査会社調べ)



株式会社カクヤス

<会社概要>

本社：東京都北区豊島2-3-1
代表取締役：佐藤 順一
創業：1921年11月1日
資本金：10百万円

<仕事内容>

- ・料飲店などの業務店のルート配達
- ・一般のご家庭への配達

連絡先：03-5902-3617
(人材開発部 採用担当)

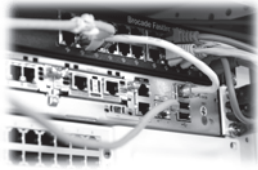
HPにも遊びに
来てくださいね！



なんでも酒や **カクヤス**
<http://www.kakuyasu.co.jp/>



「安心」「安全」「快適」な
ITインフラ環境を最先端の技術で実現



- ・社内ネットワーク
- ・院内ネットワーク
- ・無線 LAN, Wi-Fi
- ・テレワーク, Web 会議
- ・セキュリティ



FAAM



ESMO



No Man



Do RAY

豊富な実績、高い技術力で、皆様に最適な
ITソリューションをご提供いたします。

株式会社FYF

～ITソリューションでより良い未来を～

URL <https://www.fyf-h.com>
twitter https://twitter.com/FYF_INC

本社 〒277-0843 千葉県柏市明原 1-1-6
TEL 04-7192-8927 FAX 04-7192-8929

関西支店 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 3-16-16 毎日東ビル 4F
TEL 06-4306-4019 FAX 06-4306-4023

東北支店 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 1-6-18 東北王子不動産ビル 5F
TEL 022-226-7290 FAX 022-226-7291

九州支店 〒812-0029 福岡県福岡市古門戸町 2-4 KS コモンドビル 5F
TEL 092-406-4443 FAX 092-406-4453



安全に、快適に、正確に
大曾根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 育子

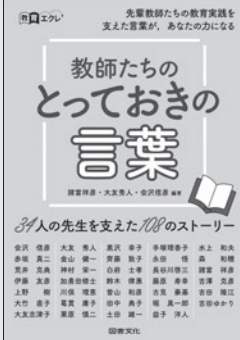
- ☆お迎え料金無料
- ☆カード利用 OK!
- ☆貸切バス事業者より
安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑 3 丁目 19-4

TEL 029-864-0301
FAX 029-864-4727
メールアドレス <http://www.taxi.e-tasukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302
各営業所に通じます



教師たちの とっておきの言葉



34人の先生を支えた108のストーリー

諸富祥彦・大友秀人・会沢信彦 編著 A5判 128頁 定価1,980円

日本全国で活躍する先生たちに聞きました!

「あなたの教育実践を支えた言葉」は何ですか?

この言葉が子どもの心に響いた! この言葉で子どもが変わり始めた!
悩んでいるとき、先輩のあの一言で力が湧いた! 道標になった! etc.

明日の教育実践への力になる「言葉とエピソード」が満載です。

本書の
構成

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1章 子どもとの間で活きた言葉 | 3章 同僚・管理職との間で活きた言葉 |
| 2章 保護者との間で活きた言葉 | 4章 自分の人生を支えている言葉 |

1つの言葉を
1ページで展開

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆ 寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆ 国際バカロレアIBDP課程認定校です
- ◆ 「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆ 部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆ 多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です
- ◆ 文部科学省SSH（3期目）認定校です

2024年度入試に関連する学園説明会などはホームページでご確認ください。学校見学をご希望の場合やご質問などは下記のe-mailでもお問い合わせができます。ご活用ください。



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp（見学等） entry@meikei.ac.jp（入試等）